

F5748Q 取扱説明書 10G EPON ONT

Version: V1.0

改版履歴

版数番号	改版日	改版内容	改版者
R1.0	2024-06-27	初版	First edition
R1.1	2024-09-17	一部誤記を修正	Second edition
R1.2	2024-10-09	製品特性表の記載を修正	Third edition

シリアル番号: SJ-20240206092737-003

目次

第 1 章	はじめに	6
1.1	安全にお使いいただくために	6
1.2	パッケージの内容	8
1.3	LED 表示	8
1.4	ポート	13
1.5	製品の機能	14
1.6	製品の仕様	15
1.7	製品の特性	16
1.8	ケーブル接続	21
第 2 章	設定の準備	24
2.1	初回ログインと確認	24
2.2	初回ログインの初期パスワード → パスワード変更	27
第 3 章	メッシュネットワーク情報確認	30
3.1	メッシュネットワーク情報確認	30
第 4 章	インターネット設定	31
4.1	ネットワークインターフェースの確認	31
4.1.1	PON 情報の確認	31
4.1.2	WAN 接続状態の確認	32

4.2	WAN の接続設定	33
4.3	セキュリティの設定	35
4.3.1	フィルタの設定	35
4.3.2	ALG(アプリケーションレイヤゲートウェイ)の設定	44
4.3.3	DMZ の設定	48
4.3.4	ポート転送の設定	49
4.3.5	NAPT の設定	51
4.4	動的ルーティングの設定	53
4.5	SNTP の設定	55
第 5 章	LAN 設定	57
5.1	LAN 情報の確認	57
5.2	無線 LAN の設定	58
5.2.1	無線 LAN の基本設定	58
5.2.2	バンドステアリングの設定	65
5.2.3	無線 LAN 拡張パラメータの設定	66
5.2.4	WPS の設定	70
5.2.5	WPS を使った SSID 引継ぎ機能	71
5.2.6	Mesh Wi-Fi の設定	74
5.2.7	無線 LAN モードステータスの確認	74
5.2.8	MLO	75
5.3	LAN (IPv4)の設定	76
5.4	ルーティングの設定	80
5.4.1	ルーティング設定(IPv4)	80
5.4.2	ルーティング設定(IPv6)	83
5.5	UPnP の設定	87
5.6	PPPoE ブリッジの設定	89
第 6 章	管理&診断	90
6.1	システム管理の利用	90

6.1.1	デバイス管理	90
6.1.2	ソフトウェアアップグレード方法	91
6.1.3	ECO モード管理設定	92
6.1.4	設定値の保存と復元	94
6.2	管理者パスワードの管理	95
6.3	ログ管理	97
6.4	リモートログの管理	111
6.5	診断	113
6.6	IPv6 スイッチの設定	115
第 7 章	トラブルシューティング	117
図	118	
表	120	
用語集		120

第 1 章 はじめに

本取扱説明書では、本製品のさまざまな機能や使いかたについて説明しています。

目次から、必要な項目を選んでお読みください。

取扱説明書の見かた

- 本取扱説明書に記載している画面やイラストはイメージです。OS、WWW ブラウザの種類など、ご利用の環境によっては実際とは異なる場合があります。
- 本取扱説明書では、「F5748Q」を「本製品」と表記しております。あらかじめご了承ください。
- 許可なく複製・改版、および複製物を配布することはできません。
- 本取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

1.1 安全にお使いいただくために

注意事項

- 本製品を安全にお使いいただくために必ずお読みください。
- 本製品に添付している電源アダプタ(AC アダプタ、電源コード)と LAN ケーブルをお使いください。
- AC アダプタと電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。火災、感電の原因となります。
- 感電等の危険を防ぐため、電源プラグを清潔かつ、乾燥を保ってください。
- 落雷による事故を防ぐため、雷雨時は必ず電源プラグを抜いてください。
- 本製品を分解しないでください。感電の危険があります。
- 視力保護のため、光ポートを直接見ないでください。
- この電源アダプタは乾燥した環境でのみ使用してください。水や湿気にさらされると、内部の電子部品が損傷し、火災や感電の危険性が高まります。
- クリーニングする前に、デバイスの電源を切り、電源コード、イーサネットケーブルなど、デバイスに接続されているすべてのケーブルを抜いてください。デバイスの清掃に液体やスプレーを使用せず、柔らかい乾いた布を使用してください。
- 万が一、使用中に煙、異常な音、異常な匂い等が出た場合、すぐに電源プラグを抜いてください。サービス提供元が指定するお問い合わせ先にご連絡ください。

* 上記注意事項以外のご利用方法で事故等が発生した場合は、一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

使用環境

- 屋内のみで使用してください。
- 直射日光を避け、通気性のよい環境でご使用ください。
- 横置きや重ね置きをしないでください。
- ヒータなどの温度が高いところや調理場などの水周りの近くに置かないでください。

電気製品、AV、OA 機器などの磁気を帯びている場所や電磁波が発生している場所(電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など)への設置は避けてください。

お手入れの条件

- お手入れの際は、本体の電源を切り、電源ケーブル、光ファイバー、イーサネットケーブルなど、本体に接続されているすべてのケーブルを抜いてください。
- デバイスの清掃には、液体やスプレーを使用しないでください。柔らかい乾いた布で拭いてください。

環境保護

- 本機や電源アダプタを不適切に廃棄しないでください。
- 機器の廃棄や処理に関する地域の規制を守ってください。

環境情報

お客様が購入された機器は、製造のために天然資源の採取と使用を必要としています。また、人の健康や環境に有害な物質が含まれている可能性があります。このような物質の環境への排出を防ぎ、天然資源への負担を軽減するために、使用済みの機器は、認定された電子機器引取システムを利用して、リユースまたはリサイクルしていただくようお願いします。

以下のシンボルは、この製品が単に廃棄されるのではなく、リユースまたはリサイクルされるべきものであることを示しています。適切なリユース・リサイクルサイトを探してご利用ください。

回収・再利用・リサイクルシステムについての詳細は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。また、これらの製品の環境性能の詳細については、機器メーカーにお問い合わせください。



1.2 パッケージの内容

本製品の本体と付属品がそろっていることをご確認ください。F5748Q パッケージの内容は 表 1-1 を参照してください。

表 1- 1 パッケージの内容

名前	数量
F5748Q 本体	1 台
電源アダプタ	1 個
RJ-45 ケーブル (Cat 6A)	1 本 (2m)
簡易ユーザーガイド	1 冊
SSID シール	1 枚

Note:

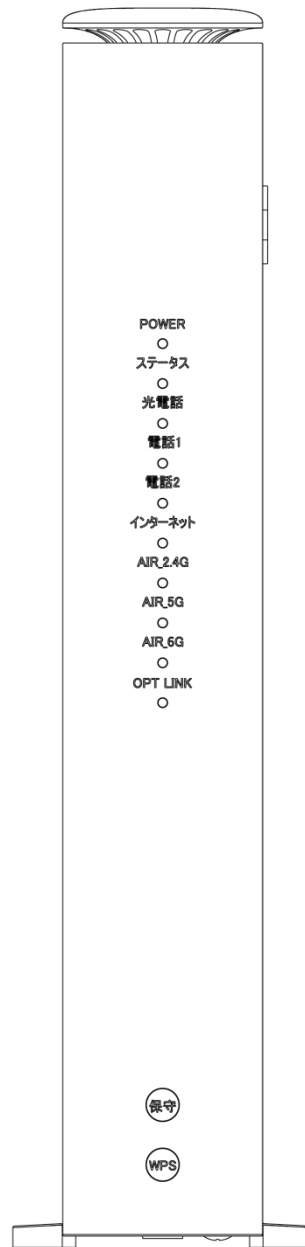
このリストはあくまでも参考情報です。実際の内容は一覧表と異なる場合があります。

万一、同梱物に誤りがあり、紛失や破損により製品を交換する必要がある場合は、パッケージとすべてのアイテムを良好な状態で保管してください。

1.3 LED 表示

本製品の前面パネルにある LED 表示の説明をします。図 1-1 を参照してください。

図 1- 1 前面パネルの LED 表示



前面パネルの LED 表示の説明をします。表 1-2 を参照してください。

表 1- 2 LED 表示の説明

LED 表示	色	説明
POWER	消灯	電源オフ／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	電源オン
	橙点灯	ECO モード中(全消灯以外)
	橙点灯 (10 秒間)	WPS 成功
	緑／橙点 滅	WPS で無線設定中
	赤点灯	フェールセーフ動作により停止状態
	赤点滅	WPS 設定失敗 (WPS セッションオーバーラップ検出)
	赤点滅 (10 秒間)	WPS 設定失敗
ステータス	消灯	VoIP-TA モード動作時 / ECO モード中(全消灯) / ブリッジモード動作時
	緑点灯	ルータモード動作時
	緑点滅	認証未完了
	橙点灯	リモートメンテナンス有効状態
	橙点滅	リモートメンテナンス許可処理中
	赤点灯	装置故障時／装置起動時
	赤点滅	最新ソフト書き込み時／設定パラメータ書き込み時
	赤 / 緑点 滅	STA モード動作中
	赤／橙点 滅	サービス利用不可
光電話	消灯	光電話サービスが利用不可 / 光電話オプション OFF 時 / WAN リンクダウン時は常時消灯 / PPP 切断時 / ECO モード中(全消灯)

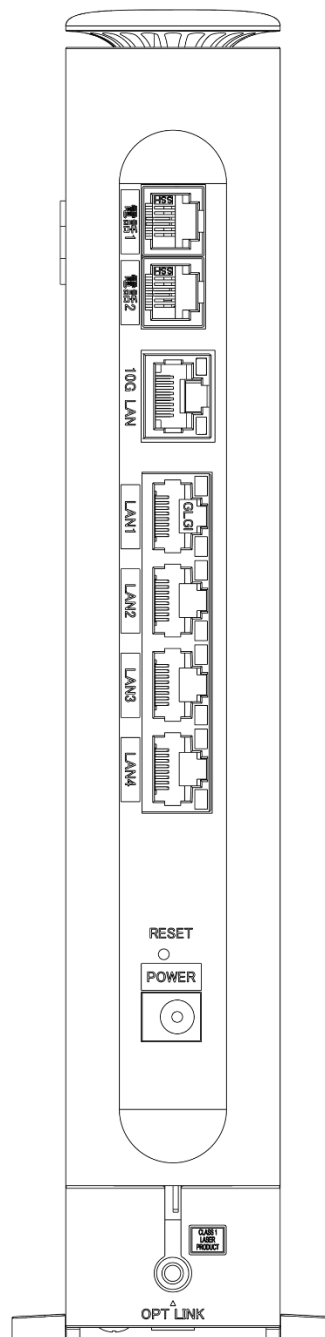
	緑点灯	光電話利用可能
	緑点滅	SIP サーバとの通信中(Register 登録中)
	橙点灯	光電話サービスの一部の登録に成功
	橙点滅	光電話用 PPP 確立中
	赤点灯	光電話 PPP 認証に失敗
	赤点滅	光電話用 PPP 認証以外の失敗時の待機中
	赤／橙点滅	登録が全て失敗
電話 1	消灯	電話未使用または光電話サービスが利用不可 / 光電話オプション OFF 時/ WAN リンクダウン時は常時消灯 / PPP 切断時/ ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	電話使用中(オフフック時)
電話 2	緑点滅	電話着信中
	橙点滅	迷惑電話の拒否動作中
10G LAN (LAN ポート状態ランプ)	消灯	リンクダウン状態／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	10G リンクアップ状態
	橙点灯	5G／2.5G／1G／100M リンクアップ状態
LAN1-LAN4 (LAN ポート状態ランプ)	消灯	リンクダウン状態／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	1G リンクアップ状態
	橙点灯	100M／10M リンクアップ状態
インターネット	消灯	ルータ機能 OFF 時／WAN ポートリンクダウン時／PPP-ID 未設定時／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	IPv4(IPv6)接続成功／装置起動時
	緑点滅	IPv6CP 認証中
	橙点灯	PPPID 設定済み、要求時接続で PPP 接続待機状態
	橙点滅	IPv4(IPCP)接続中
	赤点灯	PPP 認証エラー
	赤点滅	PPP 以外の認証失敗

	赤／橙点滅	BroadcastStorm 発生中(PADI ストーム)
AIR_2.4G	消灯	無線 LAN OFF／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	2.4G 無線 LAN が動作中／装置起動時
	緑点滅	オートチャネルセレクト動作時
	緑／橙点滅	2.4G WPS コピー動作中
	赤点灯	無線の停止または強い干渉を受けている状態（アラーム表示）
AIR_5G	消灯	無線 LAN OFF／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	5G 無線 LAN が動作中／装置起動時
	緑点滅	オートチャネルセレクト動作時または DFS 動作中
	緑／橙点滅	5G WPS コピー動作中
	赤点灯	無線 LAN と干渉する電波を検出
AIR_6G	消灯	無線 LAN OFF／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	6G 無線 LAN が動作中／装置起動時
	緑点滅	オートチャネルセレクト動作時
	赤点灯	無線の停止または強い干渉を受けている状態（アラーム表示）
OPT LINK	消灯	光入力無／ECO モード中(全消灯)
	緑点灯	光リンクの接続認証が完了
	緑点滅	光入力あり、未認証ロジカルリンク未確立状態／ロジカルリンクループバック試験中

1.4 ポート

本製品の背面パネルにあるポートとボタンを示しています。図 1-2 を参照してください。

図 1- 2 背面ポートとボタン



背面のポートとボタンの説明をします。表 1-3 を参照してください。

表 1- 3 背面ポートとボタンの説明

ポート/ボタン	説明
電話 1 電話 2	電話機コードを使用して、電話機を接続するためのポートです。
10G LAN LAN1-LAN4	RJ-45 ケーブルを使用して、PC などの端末と接続するためのイーサネットポートです。
RESET	工場出荷時の設定に戻すためのボタンです。本装置が通電した状態で先の細いピンなどで押し、3 秒以上押し続けた場合は、本製品は再起動した上、工場出荷時の設定に戻ります。
POWER	付属している電源アダプタを接続します。
OPT LINK	光ファイバーを接続します。（ご自身での取り外し、分解をしないでください。）
保守	遠隔保守機能のオン／オフを行います。
WPS	本ボタンを押すことにより WPS 対応機器と無線 LAN 接続設定を容易に行うことができます。

Note:

保守、WPS ボタンは本製品の正面側にあります。

1.5 製品の機能

インターフェース機能

- 10G-EPON インターフェース：IEEE 802.3av 規格に準拠した SC/UPC および SFP+光インターフェースをサポートします。
- イーサネットインターフェース：IEEE 802.3 規格に準拠した 10GE インターフェースを 1 つ、自動検知の 100/1000Mbps インターフェースを 4 つ搭載しています。
- WLAN インターフェース：2.4GHz および 5GHz および 6GHz の周波数帯をサポートし、内臓アンテナを提供します。

技術機能

- ワイヤレス機能：WLAN 機能の有効化／無効化、複数の SSID と仮想 AP、自動／手動のチャンネル選択、WPS 2.0 仕様、2.4GHz と 5GHz と 6GHz の周波数帯をサポートします。
- データアプリケーション機能：IPv4、IPv6 に対応し、データの転送とルーティング、DNS、DDNS などの機能をサポートします。
- QoS 機能：サービス制御、サービスフローのタグ付け、キュースケジューリング、フロー分類ポリシー、速度制限ポリシー、帯域保証などの機能をサポートします。
- セキュリティコントロール機能：ファイアウォール、データパケットフィルタリング、アクセスコントロールなどの機能をサポートします。
- 構成管理機能：複数の管理方法による設定の維持や、HTTP ベースのローカル Web 管理など、トラブルシューティングやネットワーク管理をサポートします。

1.6 製品の仕様

本製品の仕様を説明します。表 1-4 を参照してください。

表 1- 4 製品仕様

項目	仕様
外観寸法	248.5 mm×215 mm×40 mm (H×W×D, 突起部を除く)
電源	出力電圧、電流: DC 12 V、3 A 入力電圧: AC 100 V – 240 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	約 32 W(最大)
動作温度	0 °C～40 °C
動作湿度	5%～95%

1.7 製品の特性

本製品の特性を説明します。表 1-5 を参照してください。

表 1- 5 製品特性

WAN インターフェース	
物理インターフェース	10G-EPON ポート×1
伝送方式	IEEE 802.3av 準拠
物理インターフェース	SC/UPC
データ転送速度	10Gbps/1Gbps
PON インターフェース	
物理インターフェース	SC/UPC
伝送方式	ルーティングテーブルによるパケット Forwarding し、PPPoEブリッジを実装する（有線 LAN、無線 LAN 経由）
速度	10G/10G 対称型

送受信波長	10GBASE-PR30 送信光信号波長範囲 [nm] : 1260～1280nm 受信光信号波長範囲 [nm] : 1575～1580nm
送受信パワー	10GBASE-PR30 送信光パワー範囲 [dBm] : +4～+9 dBm 受信光パワー範囲 [dBm] : -28.5～-10 dBm
LAN インターフェース	
物理インターフェース	8 ピンモジュラージャック(RJ-45)×4 ポート (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Te)
データ転送速度	1Gbps/100Mbps/10Mbps
全二重/半二重	自動検出
MDI/MDI-X	自動検出
10GLAN インターフェース	
物理インターフェース	8 ピンモジュラージャック(RJ-45)×1 ポート (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Te)
データ転送速度	(10GBASE-T/5GBASE-T/2.5GBASE-T/1000BASE-T/100BASE-TX)
全二重/半二重	自動検出
MDI/MDI-X	自動検出
電話インターフェース	
物理インターフェース	RJ-11×2 ポート 600Ωインピーダンス
無線 LAN インターフェース	
IEEE 802.11a	

周波数帯域／チャンネル	5GHz 帯(5.150-5.730 GHz) 5.2G ch 36／40／44／48 5.3G ch 52／56／60／64 5.6G ch 100／104／108／112／116／120／124 ／128／132／136／140 5.7G ch 144
伝送方式	OFDM 方式
伝送速度※	54／48／36／24／18／12／9／6 Mbps (自動フォールバック)
IEEE 802.11b	
周波数帯域／ チャンネル	2.4GHz 帯(2.400-2.484 GHz)／1～13ch
伝送方式	DS-SS(スペクトラム直接拡散)方式
伝送速度※	11／5.5／2／1 Mbps(自動フォールバック)
IEEE 802.11g	
周波数帯域／ チャンネル	2.4GHz 帯(2.400-2.484 GHz)／1～13ch
伝送方式	OFDM 方式
伝送速度※	54／48／36／24／18／12／9／6 Mbps (自動フォールバック)
IEEE 802.11n	

周波数帯域／ チャンネル	2.4GHz 帯(2.400-2.484 GHz)／1～13ch
伝送方式	OFDM 方式／MIMO(空間多重)方式
伝送速度※	最大 600 Mbps(2.4 GHz 帯)
周波数帯域／ チャンネル	5GHz 帯(5.150-5.730GHz) 5.2G ch 36／40／44／48 5.3G ch 52／56／60／64 5.6G ch 100／104／108／112／116／120／124 ／128／132／136／140
伝送方式	OFDM 方式／MIMO(空間多重)方式
伝送速度※	最大 600 Mbps(5 GHz 帯)
IEEE 802.11ac	
周波数帯域／ チャンネル	5GHz 帯(5.150-5.730GHz) 5.2G ch 36／40／44／48 5.3G ch 52／56／60／64 5.6G ch 100／104／108／112／116／120／124 ／128／132／136／140
伝送方式	OFDM 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 3.467 Gbps
IEEE 802.11ax	
周波数帯域／ チャンネル	2.4GHz 帯(2.400-2.484GHz)／1～13ch

伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 1.15 Gbps(2.4 GHz 帯)
周波数帯域／ チャンネル	5GHz 帯(5.150-5.730GHz) 5.2G ch 36／40／44／48 5.3G ch 52／56／60／64 5.6G ch 100／104／108／112／116／120／124 ／128／132／136／140 5.7G ch 144
伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 4.804 Gbps (5GHz 帯)
周波数帯域／ チャンネル	6GHz 帯(5.925-6.425GHz) 1／5／9／13／17／21／25／29／33／37／41／ 45／49／53／57／61／65／69／73／77／81／ 85／89／93
伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度	最大 4.804 Gbps (6GHz 帯)
IEEE 802.11be	
周波数帯域／ チャンネル	2.4GHz 帯(2.400-2.484GHz)／1～13ch
伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 1.376 Gbps(2.4 GHz 帯)

周波数帯域／ チャンネル	5GHz 帯(5.150-5.730GHz) 5.2G ch 36／40／44／48 5.3G ch 52／56／60／64 5.6G ch 100／104／108／112／116／120／124 ／128／132／136／140
伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 5.76 Gbps (5GHz 帯)
周波数帯域／ チャンネル	6GHz 帯(5.925-6.425GHz) 1／5／9／13／17／21／25／29／33／37／41／ 45／49／53／57／61／65／69／73／77／81／ 85／89／93
伝送方式	OFDMA 方式／MU-MIMO 方式
伝送速度※	最大 11.5 Gbps (6GHz 帯)
アンテナ／セキュリティ	
セキュリティ	SSID MAC アドレスフィルタリング。

Note:

- 規格による理論上の速度であり、ご利用の環境や接続機器などにより実際のデータ転送速度は異なります。
- 通信事業者の提供メニューにより異なる場合があります。

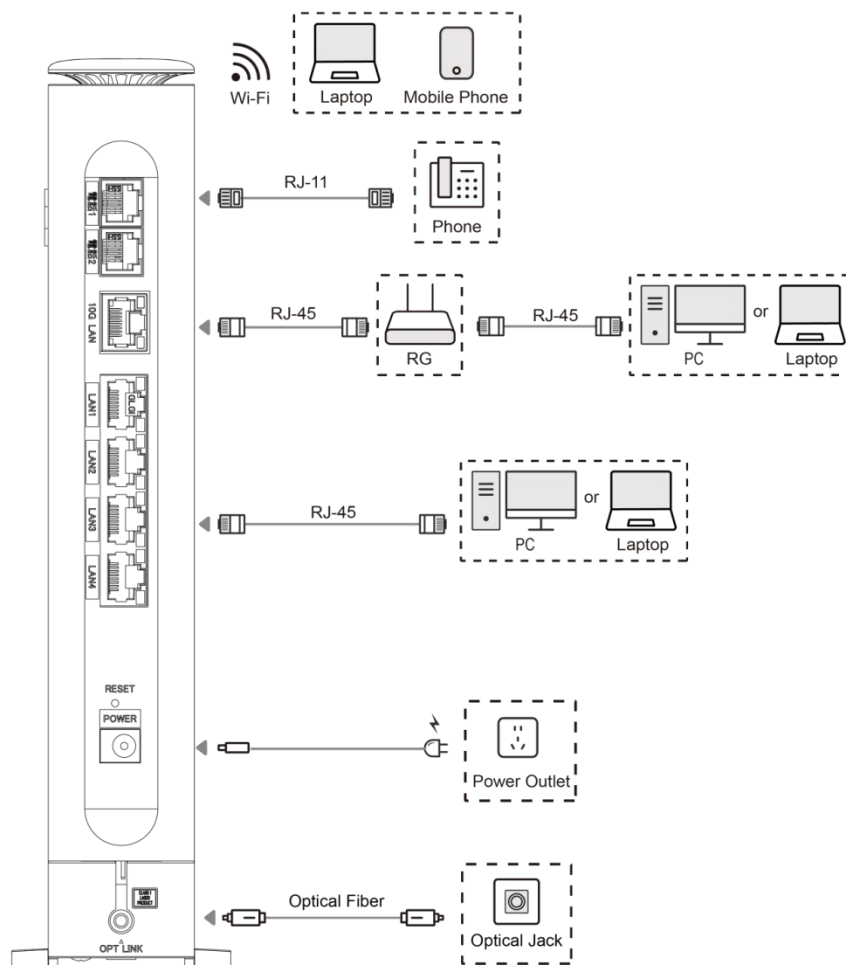
1.8 ケーブル接続

本製品は、10GE インターフェースまたは Wi-Fi インターフェースを介して、10G-EPON アップリンク光アク

セスと内部ネットワーク機能を提供します。

図 1-3 は、F5748Q デバイスに接続される機器を示しています。

L 図 1- 3 ケーブル・Wi-Fi 接続



電源 LED が点灯し、他の LED が正常に動作すると、サービスを利用することができます。

ワイヤレスネットワークのカバレッジ範囲に影響を与える要因には、本製品の場所、本製品とワイヤレス端末間の距離、障害物の数、障害物の材質と密度、干渉源などがあります。ワイヤレス信号の強度を最大化するには、次の原則に従って製品を配置することをお勧めします。

- 本製品は、ワイヤレス信号の伝播に影響を与えるオブジェクト、たとえば、金属オブジェクトやミラーなどの反射率の高いオブジェクトから離れている必要があります。

- 本製品は、電子レンジ、冷蔵庫、ワイヤスルーター、コードレス電話、Bluetooth 製品など、強力な磁場または電界を持つ電気機器から離れている必要があります。
- 設置場所と同じ階に設置してください。
- 本製品の上に他の物を置かないでください。
- 本製品と無線端末の間の障害物の数を減らすようにしてください。
- 水平に置いた状態で高い位置に置かないでください。推奨される高さは 1.2～1.5m です。

第 2 章 設定の準備

2.1 初回ログインと確認

概要

本取扱説明書では、本製品（F5748Q）メインページを開くためのログイン方法を説明するための例として、Windows オペレーティングシステムを使用しています。

前提

パソコンで F5748Q へログインするには、パソコンの IP アドレスと F5748Q のメンテナンス用 IP アドレスが同じネットワークセグメントにあるように設定する必要があります。

F5748Q のデフォルトのメンテナンス情報は以下の通りです。

- IP address: 192.168.0.1
- Subnet mask: 255.255.255.0
- Gateway: 192.168.0.1

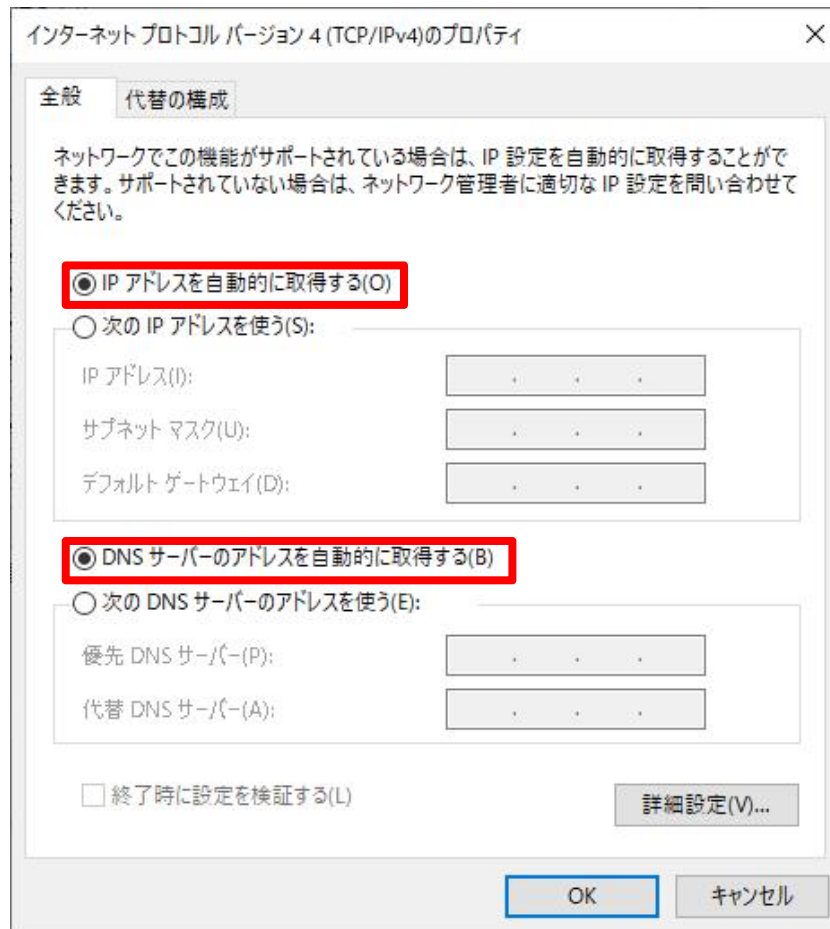
手順

イーサネットケーブルを使用してローカルコンピュータと空いている LAN インターフェースを接続します。

ローカルコンピュータで、[ローカルエリア接続]をダブルクリックし、[プロパティ]をクリックします。[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

インターネットプロトコル（TCP / IP）をダブルクリックします。下記のようにパソコンのインターネットプロトコル（TCP/IPv4）のプロパティを自動的に取得するように設定してください。図 2-1 を参照してください。

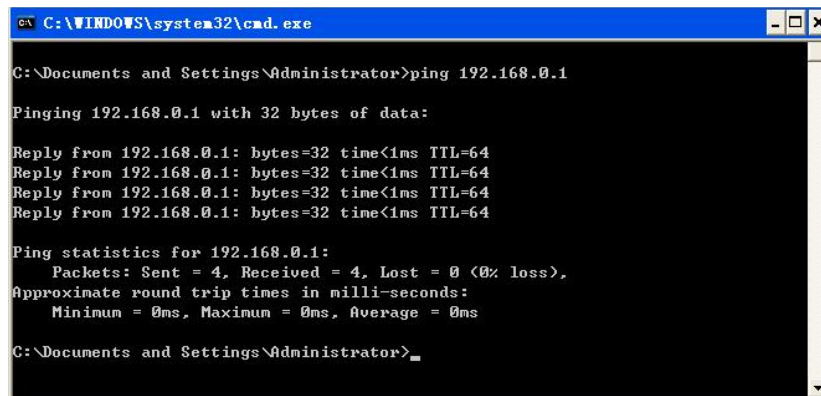
図 2- 1 インターネット プロトコル バージョン 4 のプロパティ



「OK.」をクリックします。

コマンドプロンプトを起動し、IP アドレス 192.168.0.1 に ping を実行します。ping 操作が成功した場合は、TCP / IP 設定が正しいこと、およびコンピュータが本製品のメインページを開くために正しく接続されていることを示します。 図 2-2 を参照してください。

図 2- 2 Ping ページ



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe

C:\Documents and Settings\Administrator>ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=64

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

C:\Documents and Settings\Administrator>
```

1. WEB ブラウザを開き、アドレスバーに“http://192.168.0.1”と入力します。Enter キーを押してください。

「ログイン」ページが表示されます。図 2-3 を参照してください。

図 2- 3 ログインページ



ログインしてください

ユーザー名

パスワード

ログイン

2. ユーザー名とパスワードを入力して「ログイン」をクリックします（デフォルトのユーザー名は admin）。図 2-4

に示すように、ホームページが表示されます。

図 2- 4 本製品(F5748Q)のメインページ



2.2 初回ログインの初期パスワード → パスワード変更

概要

初回ログインの初期パスワード変更手順を説明します。

手順

1. WEB ブラウザを開き、アドレスバーに“http://192.168.0.1”と入力します。Enter キーを押してください。
「ログイン」ページが表示されます。図 2-5 を参照してください。

図 2- 5 ログイン ページ

ログインしてください

ユーザー名

パスワード

ログイン

2. ユーザー名（初期のユーザ名：admin）とパスワードを入力して[ログイン]をクリックします。「本製品（F5748Q）のメイン」ページが表示されます。図 2-3 を参照してください。
3. 初期パスワードは本体表側の下にあるシートに記載しております。図 2-6 を参考ください。

図 2- 6 本体のシール

コムファ光 Powered by ctc		レンタル品 機器 お問い合わせ: コミュファ コンタクトセンター 電話番号 0120-218-919	 217-241454
型番 F5748Q 製造番号 WWWWXXXXXXXXXXXX 製造年月 YYYY年MM月 定格 12V / 3A (Typ)	HGW-MAC XX:XX:XX:XX:XX:XX ONU-MAC XX:XX:XX:XX:XX:XX Web PW XXXXXX		
SSID(バンドステアリング) ctc-yXXXXXX SSID (2.4G) ctc-2g-yXXXXX SSID (5G) ctc-5g-yXXXXX SSID (6G) ctc-6g-yXXXXX パスワード XXXXXXXXXXXXXXXX		注意: 縦置きに設置してください W52/W53/6GHzは屋内使用限定 使用中は本製品が熱くなることがあります。 安全策として、高温時の動作停止、 冷却後の再起動機能を有しています。 本機を分解・改造しないでください。 再起動させたい場合は、コンセントの 挿抜を実施してください。 詳しくはこちらをご覧ください。 https://www.commufa.jp/j/kankyo.html ZTE CORPORATION	
 Made in China			

4. 初期化ユーザー名/パスワードを入力後、下記の画面が表示されます。入力ルールに従って、新パスワードを設定し、Web 画面に入ります。図 2-7 を参照ください。

図 2- 7 ログイン画面 パスワード変更



ログイン画面 -パスワード変更-

i パスワードは6文字以上で、半角英数字及び記号を含む必要があります。

ユーザー名

新パスワード

パスワードの確認

設定

※パスワードは、次の規則に従う必要があります：

- 文字数は 6 文字以上です。
- 数字、英文字（大文字／小文字）、記号を用いる必要があります。
- 初期ログイン時パスワードと同じや逆順などは設定しないでください。

第 3 章 メッシュネットワーク

情報確認

3.1 メッシュネットワーク情報確認

概要

メッシュネットワーク画面に下記の情報を表示します：

- Controller と Agent の設備情報
- 無線クライアント端末情報と有線クライアント端末情報

※メッシュ Wi-Fi サービス申し込みのお客様のみ有効な設定です。

メッシュ Wi-Fi サービス申し込み済みでも提供形態により表示されない場合があります。

手順

1. Web GUI のメインページにて、メッシュネットワークメニューを選び図 3-1 を示すようにメッシュネットワーク画面に入ります。

図 3- 1 Topology 情報

Home

Topology

Internet

Local Network

Management & Diagnosis

Controller · Agent

No	Device Name	IP Address	MAC Address	Connect	Connect Band	Type	Channel	RSSI	Operation
1	F5748Q	192.168.0.1	f8:79:28:80:68:30	-	-	Controller	-	-	
2	H3701Q	192.168.0.3	00:19:c6:51:00:70	1	5G	Agent	128		Reboot

Device

No	Device Name	IP Address	MAC Address	Connect	LinkSpeed Up	LinkSpeed Down	802.11 Mode	Connect Band	Channel	RSSI
3	A25595289	192.168.0.5	00:e0:4c:9f:50:61	1	-	-	-	LAN	-	-
4	OPPO-A321111	192.168.0.4	94:54:ce:a9:b8:a5	2	1Mbps	52Mbps	802.11n	2.4G	6	

Refresh

第 4 章

インターネット設定

4.1 ネットワークインターフェースの確認

4.1.1 PON 情報の確認

概要

F5748Q デバイスの光モジュール情報には、PON の状態、入力電力、出力電力、動作温度、動作電圧、動作電流が含まれます。

手順

1. 本製品のメインページから**インターネット** > **PON 情報** を選択して、「PON 情報」ページを開きます。 図 4-1 を参照してください。

図 4- 1 PON 情報ページ

▼ PON情報	
OAM状態	正常
ONU状態	登録完了/認証完了
光モジュール入力パワー (dBm)	-16.9464
光モジュール出力パワー (dBm)	7.0632
光モジュール供給電圧 (mV)	3296
光送信器のバイアス電流 (mA)	35.484
光モジュールの動作温度 (°C)	46.902

現在の状態を表示

2. [現在の状態を表示]をクリックして最新の情報を表示します。

4.1.2 WAN 接続状態の確認

概要

WAN 接続ステータス メニュー項目を使用して、IP アドレス、接続名などを含む WAN 接続のステータスを確認できます。PON 接続ステータス情報は、PON 接続が作成されたときにのみ表示されます。

手順

1. 左側のナビゲーションツリーから、**インターネット > ステータス**を選択して、「WAN 接続ステータス」ページを開きます。図 4-2 を参照してください。

図 4- 2 WAN 接続ステータスページ

▼ WAN接続ステータス

接続名	commufa	
タイプ	PPPoE	
IPバージョン	IPv4/v6	
NAT	オン	
IPアドレス	0.0.0.0/0.0.0.0	
DNSアドレス	0.0.0.0/0.0.0.0/0.0.0.0	
IPv4接続ステータス	切断	接続 切断
IPv4オンライン期間	0 時 0 分 0 秒	
切断理由	キャリアなし	
LLA	::	
GUA	::	
DNSアドレス	::/::/::	
IPv6接続ステータス	切断	
IPv6オンライン期間	0 時 0 分 0 秒	
WAN MAC	d8:a8:c8:7f:f1:da	

現在の状態を表示

2. **[現在の状態を表示]**をクリックし、最新の情報が表示されます。

4.2 WAN の接続設定

概要

ネットワーク側でブロードバンド接続（WAN 接続）を構成して、ユーザーサービスを外部ネットワークに接続できるようにする方法について説明します。本製品は PPP 接続をサポートしています。サービスメニューにより自動設定される場合があります。その場合ユーザー名/パスワードは設定できません。

手順

1. 左側のナビゲーションツリーから **インターネット** > **WAN** を選択して、「**WAN 接続**」ページを開きます。図 4-3 を参照してください。

図 4- 3 WAN 接続ページ

▼ WAN接続

▼ セレクトメニュー

PPP

ユーザー名

パスワード

認証タイプ ▼

接続モード ▼

ICMP応答 ☐ オン ☒ オフ

キープアライブ ☒ オン ☐ オフ

手動DNSサーバ ☐ オン ☒ オフ

2. **WAN 接続**を設定します。パラメータは表 4-1 を参照してください。

表 4- 1 WAN 接続のパラメータ

パラメータ	説明
ユーザー名/パスワード	PPPoE ユーザー名とパスワードを設定します。 サービス提供元によって提供されます。 文字数 1 ～ 128
認証タイプ	認証タイプを設定します。 自動：本製品はピアサーバーがサポートする認証タイプに基づいて認証タイプを自動的に選択します。 PAP:PAP タイプのみが使用されます。 CHAP:CHAP タイプのみが使用されます。
接続モード	接続モードを設定します。 常時接続：本製品の電源がオンになるかオフラインになると、システムは自動的に PPPoE ダイアルアップを開始します。 要求時接続：データ送信の要求に応じて PPPoE チャンネルが自動的に確立されます。チャンネルが特定の期間アイドル状態の場合、チャンネルは自動的に開放されます。 常時切断：ネットワークを切断します。
ICMP 応答	ICMP パケットには、ポート到達不能パケットと呼ばれるタイプが含まれています。 オン：機能が有効 パケットに応答します。 オフ：機能が無効 パケットに応答しません。 初期値：オフ

キープアライブ	PPP キープアライブ パケットスイッチ オン：機能が有効 キープアライブパケットを自動的に送信します。 オフ：機能が無効 キープアライブパケットを自動的に送信しません。 初期値：オン
手動 DNS サーバ	DNS サーバはドメイン名と IP アドレスを変換する仕組みを提供するサーバです。 オン：手動 DNS サーバ設定を有効にします。DNS サーバのアドレスの入力が必要です。 オフ：手動の DNS サーバ設定をオフにします。ISP による DNS サーバは利用されます。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

4.3 セキュリティの設定

4.3.1 フィルタの設定

概要

フィルタの設定方法を説明します。

手順

IPv4 フィルタの設定

1. 本製品のメインページから**インターネット > セキュリティ > IP フィルタ-IPv4**をクリックし、「**IPv4 パケットフィルタ**」ページを開き、更に「**新しいアイテムを作成する**」をクリックして個別のパケットフィルタの設定ができます。図 4-4 を参照してください。

図 4- 4 IP パケットフィルタ IPv4 ページ

IPv4 パケットフィルタを設定します。パラメータは表 4-2 を参照してください。

表 4- 2 IPv4 フィルタのパラメータ

パラメータ	説明
新項目	オン：IP フィルタを有効にします。 オフ：IP フィルタを無効にします。 初期値： オフ
名前	IP フィルタの名前を設定します。 文字数 1 ～ 32

オン/オフ設定 説明の最後の記述が見えない	フィルタエントリに合致したパケットをどのように処理するかを指定します。 許可する：フィルタエントリに合致したパケットを通信させます。 廃棄：フィルタエントリに合致したパケットを廃棄します。 初期値：許可する
優先度 説明最後の記述が見えない	フィルタの優先度を設定します。 1 ～ 40 まで選択可能 初期値：1 ※エントリが複数ある場合、優先度の数字の小さいエントリから優先します。 ※優先度が重なった場合、新しく設定したルールが適用され、以前設定されていたルールの優先度数字が1つ大きくなります。
プロトコル	フィルタリングする対象のプロトコルを選択します。 TCP：TCP をフィルタリングします。 UDP：UDP をフィルタリングします。 TCP と UDP：TCP と UDP をフィルタリングします。 ICMP：ICMPv4 をフィルタリングします。 任意：IPv4 パケットすべてを処理します。IPv4 パケットであれば、TCP、UDP、ICMPv4 も対象とします。 初期値：TCP

送信元ポート範囲 宛先ポート範囲 説明の最後の記述が見えない	送信元：フィルタ対象とするパケットの送信元ポート番号を設定します。 宛先送信元ポート：フィルタ対象とするパケットの宛先ポート番号を設定します。
送信元 IP 範囲 宛先 IP 範囲	送信元：フィルタ対象とするパケットの送信元 IP アドレスを設定します。 宛先 IP アドレス：フィルタ対象とするパケットの宛先 IP アドレスを設定します。 手動で入力可能
対象インターフェース (in)	データトラフィックの方向性を指定します。対象インターフェースの in と out を同じにすることはできません。 任意：LAN 側/WAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。 LAN：LAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。 コミュファ：WAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。

対象インターフェース（out）	データトラフィックの方向性を指定します。対象インターフェースの in と out を同じにすることはできません。 任意：LAN 側/WAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。 LAN：LAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。 コミュファ：WAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。
-----------------	--

2. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

IPv6 フィルタの設定

1. 本製品のメインページから**インターネット > セキュリティ > IP フィルタ-IPv6**をクリックし、「**IPv6 パケットフィルタ**」ページを開き、更に「**新しいアイテムを作成する**」をクリックして個別のパケットフィルタの設定ができます。図 4-5 を参照してください。

図 4- 5 IP パケットフィルタ IPv6 ページ

▼ 新項目

○ オン

☒ オフ



名前

オン/オフ設定

☒ 許可する ☐ 破棄

優先度

1

▼

プロトコル

TCP

▼

送信元ポート範囲

~

宛先ポート範囲

~

送信元IPv6アドレス

/

宛先IPv6アドレス

/

対象インターフェース(in)

任意

▼

対象インターフェース(out)

任意

▼

設定

キャンセル

2. IPv6 パケットフィルタを設定します。パラメータは表 4-3 を参照してください。

表 4- 3 IPv6 フィルタのパラメータ

パラメータ	説明
新項目	オン：IP フィルタを有効にします。 オフ：IP フィルタを無効にします。 初期値： オフ
名前	IP フィルタの名前を設定します。 文字数 1 ～ 32

オン/オフ設定	フィルタエントリに合致した IPv6 パケットをどのように処理するかを指定します。 許可する：フィルタエントリに合致した IPv6 パケットを通信させます。 廃棄：フィルタエントリに合致した IPv6 パケットを廃棄します。
優先度	フィルタの優先度を設定します。 1 ～ 40 まで選択可能 初期値：1 ※エントリが複数ある場合、優先度の数字の小さいエントリから優先します。 ※優先度が重なった場合、新しく設定したルールが適用され、以前設定されていたルールの優先度数字が1つ大きくなります。
プロトコル	パケットをフィルタリングする対象のプロトコルを選択します。 TCP：TCP をフィルタリングします。 UDP：UDP をフィルタリングします。 TCP と UDP：TCP と UDP をフィルタリングします。 ICMPv6：ICMPv6 をフィルタリングします。 任意：IPv6 パケットすべてを処理します。 IPv6 パケットであれば、TCP、UDP、ICMPv6 も対象とします。

送信元ポート範囲 宛先ポート範囲	送信元：フィルタ対象とする IPv6 パケットの送信元ポート番号を設定します。 宛先送信元ポート：フィルタ対象とする IPv6 パケットの宛先ポート番号を設定します。
送信元 IPv6 アドレス範囲 宛先 IPv6 アドレス範囲	送信元：フィルタ対象とする IPv6 パケットの送信元 IP アドレスを設定します。 宛先 IP アドレス：フィルタ対象とする IPv6 パケットの宛先 IP アドレスを設定します。 手動で入力可能 プレフィクス範囲：1 ～ 128
対象インターフェース（in） 説明の最後の記述が見えない	データトラフィックの方向性を指定します。対象インターフェースの in と out を同じにすることはできません。 任意：LAN 側/WAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。 LAN：LAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。 コミュファ：WAN 側からパケットを受信したときフィルタを適用します。

対象インターフェース（out）	データトラフィックの方向性を指定します。対象インターフェースの in と out を同じにすることはできません。 任意：LAN 側/WAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。 LAN：LAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。 コミュファ：WAN 側へパケットを送信するときフィルタを適用します。
-----------------	--

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

4.3.2 ALG(アプリケーションレイヤゲートウェイ)の設定

概要

ALG（アプリケーションレイヤゲートウェイ）を設定する方法を説明します。

ALG は、ファイアウォールの 1 つの方式です。通信の中継として機能しプロキシプログラムを使い、アプリケーションプロトコルを管理することで、アプリケーションレベルのフィルタリングを行います。NAT 機能を利用する環境下では、あらかじめ指定しておくアプリケーションやサービスがあり、本製品では **FTP ALG、H323 ALG、IPSEC ALG、PPTP ALG、RTSP ALG、SIP ALG、TFTP ALG** に対して設定ができます。

手順

1. 本製品のメインページから**インターネット > セキュリティ > ALG** を選択し、「ALG（アプリケーションレイヤゲートウェイ）」のページを開きます。図 4-6 を参照してください。

図 4- 6 ALG(アプリケーションレイヤゲートウェイ)ページ

▼ ALG（アプリケーションレイヤゲートウェイ）

FTP ALG	☒ オン ☐ オフ
H323 ALG	☒ オン ☐ オフ
IPSEC ALG	☒ オン ☐ オフ
PPTP ALG	☒ オン ☐ オフ
RTSP ALG	☒ オン ☐ オフ
SIP ALG	☒ オン ☐ オフ
TFTP ALG	☒ オン ☐ オフ

すべてオン | [すべてオフ](#)

[設定](#) [キャンセル](#)

ALG を設定します。パラメータは表 4-4 を参照してください。

表 4- 4 ALG のパラメータ

パラメータ	説明
FTP ALG	アクティブ（ACTIVE）モード（WAN 側 FTP サーバー（ポート番号 20）から LAN 側端末ヘデータコネクションを確立します）を使用する場合に設定します。 オン：アクティブモードを有効にします。 オフ：アクティブモードを無効にします。 ※パッシブ（PASV）モード（LAN 側端末から WAN 側 FTP サーバー（ポート番号 1024～）ヘデータコネクションを確立します）は、オン/オフの設定に関係なく使用できます。 初期値： オフ
H323 ALG	主にテレビ会議用に使用されています。 設定をオンにすると、パケットヘッダに書かれた LAN 側ネットワークアドレスと WAN 側ネットワークアドレスの変換を行う通常の NAT の処理だけでなく、ペイロードに埋め込まれた通信制御情報内のプライベート IP アドレスをグローバル IP アドレスに書き換える処理を行ってパケットを送信します。設定されていない（オフ）場合、LAN 側から WAN 側へパケットを送信できますが、WAN 側から LAN 側へパケットを送信しても、アドレス変換が行われないため、パケットが破棄され、テレビ会議ができない場合があります。 オン：H323/netmeeting のサポートを有効にします。 オフ：H323/netmeeting のサポートを無効にします。 初期値： オフ

IPSEC ALG	設定をオンにすると、IPSec パケットを処理し、LAN 側と WAN 側間の新しいデータ接続用にネットワークアドレス変換とデータ転送用ピンホールを開き、インターネットを経由して LAN 側の IPsec 機器から WAN 側 IPsec 機器へアクセスが可能になります。 IPsec による通信をする場合の UDP ポート番号 500、4500 オン：IPSEC のセッション数の制限を無効にします。 オフ：IPSEC のセッション数を制限し、1 台のサーバーが 1 台のクライアントのみ接続可能にします。 初期値： オフ
PPTP ALG	設定をオンにすると、PPTP パケットを処理し、LAN 側と WAN 側間の新しいデータ接続用にネットワークアドレス変換とデータ転送用ピンホールを開き、インターネットを経由して LAN 側の PPTP 端末から WAN 側 PPTP 端末へアクセスが可能になります。 PPTP による通信をする場合の TCP ポート番号 1723 オン：PPTP のサポートを有効にします。 オフ：PPTP のサポートを無効にします。 初期値： オフ
RTSP ALG	設定をオンにすると、TCP 上で音声や動画などのストリーミング伝送を行うため制御接続を監視し、RTSP ストリームに対して動的にフローを開き、ネットワークアドレスとポート書き換えを実行します。 TCP ポート番号 554 オン：RTSP のサポートを有効にします。

	オフ：RTSP のサポートを無効にします。 初期値： オフ
SIP ALG	主にインターネット電話に使用されています。 設定をオンにすると、パケットヘッダに書かれた LAN 側ネットワークアドレスと WAN 側ネットワークアドレスの変換を行う通常の NAT の処理だけでなく、ペイロードに埋め込まれた通信制御情報内のプライベート IP アドレスをグローバル IP アドレスに書き換える処理を行ってパケットを送信します。設定されていない（オフ）場合、LAN 側から WAN 側へパケットを送信できますが、WAN 側から LAN 側へパケットを送信しても、アドレス変換が行われないため、パケットが破棄され、インターネット電話ができない場合があります。 オン：SIP のサポートを有効にします。 オフ：SIP のサポートを無効にします。 初期値： オフ
TFTP ALG	特定の端末に効率よく(容量の大きいファイルを早く)データ転送する際に設定します。 ※UDP 上で動作しているので、TCP 上で動作する FTP と異なりユーザー名とパスワードの認証が行われないので信頼性はありません。 オン：TFTP のサポートを有効にします。 オフ：TFTP のサポートを無効にします。 初期値： オフ

2. [設定]をクリックし、選択したパラメータを有効にします。

Note:

- 全ての ALG サービスを有効にする場合は、[すべてオン]をクリックします。
- 全ての ALG サービスを無効にする場合は、[すべてオフ]をクリックします。

4.3.3 DMZ の設定

概要

DMZ の設定方法を説明します。

外部(インターネット)からアクセス可能となる LAN 側の端末を指定する機能です。

手順

1. DMZ 本製品のメインページでから**インターネット > セキュリティ > DMZ** を選択し、「DMZ-IPv4」のページを開きます。図 4-7 を参照してください。

図 4- 7 DMZ IPv4 ページ

▼ DMZ-IPv4

2. DMZ を設定します。パラメータは表 4-5 を参照してください。

表 4- 5 DMZ のパラメータ

パラメータ	説明
DMZ	オン：DMZ 機能を反映します。 オフ：DMZ 機能を無効にします。 初期値：オフ

インターフェース	ポート転送の為の IPv4 WAN 接続 オートセンス：デフォルトルートで WAN 接続されます。 コミュファ：特定の WAN で接続されます。 初期値：オートセンス
DMZ ホストの IP アドレス	LAN 側のコンピュータまたはワイヤレスデバイスの MAC アドレス または IP アドレスを入力してください

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

4.3.4 ポート転送の設定

概要

外部ネットワークからのコンピュータが WAN 接続を介して LAN 側サーバーにアクセスできるようにポート転送を設定する方法について、説明します。

ポート転送ではポート転送の設定に必要なパラメータを提供します。複数のサービス用のローカルサーバーがあり、それらをパブリックネットワークにアクセス可能にしたい場合は、ポート転送ポリシーを指定する必要があります。NAT を適用することで、これらサーバーの内部 IP アドレスをインターネット上でユニークな単一の IP アドレスに変え、インターネットユーザーにとって、LAN 上のすべての仮想サーバーは同じ IP アドレスを持ちます。この IP アドレスは ISP によって割り当てられます。インターネットユーザーにサーバー接続を容易にする為、このアドレスは動的ではなく静的である必要があります。

但し、インターネットユーザーが IP アドレスの代わりに URL を使って仮想サーバーにアクセスできるように、動的 DNS を使用することができます。

手順

1. 本製品のメインページから**インターネット > セキュリティ > ポート転送**を選択して、「**ポート転送**」ページを開きます。図 4-8 を参照してください。

図 4- 8 ポート転送ページ

▼ ポート転送

▼ 新項目

☒ オン
☐ オフ

名前

プロトコル

TCP

WAN側ホストのIPアドレスの範囲

. . . ~ . . .

LAN側ホスト

ポート

~

設定

キャンセル

+

新しいアイテムを作成する

2. **ポート転送**を設定します。パラメータは表 4-6 を参照してください。

表 4- 6 ポート転送のパラメータ

パラメータ	説明
新項目	オン：ポート転送機能を有効にします。 オフ：ポート転送機能を無効にします。 初期値：オン（初めて設定する場合）
名前	仮想ホスト名を設定します。 文字数 1 ～ 64 英数記号を用い入力します。
プロトコル	プロトコルを選択します。 TCP：TCP をポート転送します。 UDP：UDP をポート転送します。 TCPとUDP：TCPとUDP をポート転送します。 初期値：TCP

WAN 側ホストの IP アドレスの範囲	WAN 側ホストの IP アドレスを設定します。 範囲： 1.0.0.0 – 255.255.255.255 設定しない場合： 0.0.0.0
LAN 側ホスト	LAN 側ホストの IPv4 アドレス、または MAC アドレス
ポート	LAN 側ホストのポート番号範囲 範囲： 1 ～ 65535

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

Note:

- この機能により、ユーザーは WAN 側から LAN 側の仮想ホストにアクセスすることができます。
- ポート転送を使用することにより、WAN 側から割り当てられた IP とポート間のホストへのアクセスは、LAN 側の 1 つのホストに転送されます。

4.3.5 NAPT の設定

概要

NAPT(NAT 表)の設定方法を説明します。

NAPT 機能を使用する際の IP アドレス/TCP ポート番号ならび IP アドレス/UDP ポート番号の動的変換テーブルの有効保持時間（秒）を設定します。この設定は IPv4/IPv6 と共有です。

手順

1. 本製品のメインページから**インターネット > セキュリティ > NAPT**を選択して、「NAPT」ページを開きます。

図 4-9 を参照してください。

図 4- 9 NATP ページ

▼ NATP

NATエントリ番号

337

TCPタイマ (秒)

3600

UDPタイム (秒)

300

設定

キャンセル

NAPT を設定します。パラメータは表 4-7 を参照してください。

表 4- 7 NATP のパラメータ

パラメータ	説明
NAT エントリ番号	現在使用されている NAT エントリの数。
TCP タイマー (秒)	TCP エージングタイム 範囲：3 ～ 3600 秒
UDP タイマー (秒)	UDP エージングタイム 範囲：3 ～ 3600 秒

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

4.4 動的ルーティングの設定

概要

動的ルーティングの設定方法を説明します。本節では動的ルーティングの RIP 構成機能に関するパラメータを提供します。

手順

RIP

1. 本製品のメインページから**インターネット > 動的ルーティング > RIP** を選択し、「RIP」のページを開きます。図 4-10 を参照してください。

図 4- 10 RIP ページ

▼ RIP

RIP	☐ オン ☒ オフ
RIPバージョン	RIP v2
認証タイプ	なし

設定

キャンセル

2. RIP を設定します。パラメータは表 4-8 を参照してください。

表 4- 8 RIP パラメータ

パラメータ	説明
RIP	[オン]を選択すると有効にします。 [オフ]を選択すると無効にします。
RIP バージョン	RIP v1 : RIP-1 パケットのみを送信する方式です。 RIP v2 : RIP-2 パケットをマルチキャストで送信します。 RIP v1 互換 : RIP-2 パケットがブロードキャストされる場

認証タイプ	タイプには、なし、平文パスワード、MD5 暗号化があります。 初期値：None
認証キー	認証キーを入力します。 範囲：1～16 文字 ※認証タイプのパラメータで「平文パスワード」、「MD5 暗号化」を選択したときのみ表示されます。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

RIPng

1. 本製品のメインページから**インターネット > 動的ルーティング > RIPng**を選択し、「RIPng」のページを開きます。図 4-11 を参照してください。

図 4- 11 RIPng ページ

▼ RIPng

RIPng
☐ オン
☒ オフ

2. RIPng では、次の操作を実行できます。
- **[オン]**を選択すると有効にします。
 - **[オフ]**を選択すると無効にします。
 - 初期値：オフ
3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

4.5 SNTP の設定

概要

SNTP の設定方法を説明します。SNTP は SNTP 設定機能のパラメータを提供します。

手順

1. 本製品のメインページから**インターネット > SNTP** を選択して、「SNTP」ページを開きます。図 4-12 を参照してください。

図 4- 12 SNTP ページ

▼ SNTP

現在時刻:

2024-06-07 19:51:33

タイムゾーン

(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京

プライマリNTPサーバ

セカンダリNTPサーバ

ポーリング間隔

86400

秒

設定

キャンセル

2. SNTP を設定します。パラメータは表 4-9 を参照してください。

表 4-9 SNTP パラメータ

パラメータ	説明
現在時間	現在の時間が表示されます。
タイムゾーン	タイムゾーンを設定します。 初期値：(GMT+09:00)大阪、札幌、東京（日本標準時間）
プライマリ NTP サーバー	プライマリ NTP サーバーの IP アドレスを設定します。 文字数 1 ～ 64

セカンダリ NTP サーバー	セカンダリ NTP サーバーの IP アドレスを設定します。 文字数 1 ～ 64
ポーリング間隔	時間同期の間隔を設定します。単位：秒 範囲：3600 – 86400

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

第 5 章

LAN 設定

5.1 LAN 情報の確認

概要

この本節では、ローカルネットワークのステータスを確認する方法について説明します。LAN 情報の関連情報には、LAN 情報、無線 LAN ステータス、無線 LAN クライアントステータス、LAN クライアントステータス、PPPoE ブリッジステータスが含まれます。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > ステータスを選択して、「LAN 情報」ページを開きます。図 5-1 を参照してください。

図 5- 1 LAN 情報ページ

▼ LAN情報	
イーサネットポート	LAN1
状態	Up/1Gbps/全二重
受信バイト数 / 送信バイト数	594012/2851739
受信パケット数 / 送信パケット数	5444/5076
受信ユニキャストパケット数 / 送信ユニキャストパケット数	4943/4960
受信マルチキャストパケット数 / 送信マルチキャストパケット数	375/115
受信エラーパケット数 / 送信エラーパケット数	0/0
受信廃棄パケット数 / 送信廃棄パケット数	0/0

2. [現在の状態を表示]をクリックすると情報を更新します。

5.2 無線 LAN の設定

5.2.1 無線 LAN の基本設定

概要

無線 LAN 基本設定の設定方法を説明します。

無線 LAN 基本設定の無線 LAN 2.4GHz 帯と無線 LAN 5GHz 帯のそれぞれのパラメータの設定情報を提供します。

手順

無線 LAN オン/オフ設定

1. 本製品のメインページから LAN > 無線 LAN を選択して、「無線 LAN オン/オフ設定」ページを開きます。

図 5-2 を参照してください。

図 5- 2 無線 LAN オン/オフ設定ページ

▼ 無線LANオン/オフ設定

無線LAN (2.4GHz)	☒ オン	☐ オフ
無線LAN (5GHz)	☒ オン	☐ オフ
無線LAN (6GHz)	☒ オン	☐ オフ

設定 キャンセル

2. 無線 LAN オン/オフ設定を設定します。パラメータは表 5-1 を参照してください。

表 5- 1 無線 LAN オン/オフ設定のパラメータ

パラメータ	説明
無線 LAN (2.4GHz)	オン : 2.4GHz 帯の無線 LAN を有効にします。 オフ : 2.4GHz 帯の 無線 LAN を無効にします。 初期値 : オン

無線 LAN (5GHz)	オン : 5GHz 帯の無線 LAN を有効にします。 オフ : 5GHz 帯の 無線 LAN を無効にします。 初期値 : オン
無線 LAN (6GHz)	オン : 6GHz 帯の無線 LAN を有効にします。 オフ : 6GHz 帯の 無線 LAN を無効にします。 初期値 : オン

Note:

6GHz のみ有効の端末の場合、その端末は 6GHz 帯の無線 LAN に接続できない可能性があります。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

無線 LAN 詳細設定

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** を選択して、「**無線 LAN 詳細設定**」ページを開きます。図 5-3 を参照してください。

図 5- 3 無線 LAN 詳細設定ページ

▼ 無線LAN詳細設定

▼ 2.4GHz

チャンネル

自動

モード

(802.11b/g/n/ax/be)

帯域幅

20MHz

SGI

☐ オン
☒ オフ

ビーコン間隔(ms)

100

送信出力

100%

マルチキャスト変換

☒ 有効
☐ 無効

TWT

☒ オン
☐ オフ

設定

キャンセル

2. 無線 LAN 詳細設定を設定します。パラメータは表 5-2 を参照してください。

表 5- 2 無線 LAN 詳細設定のパラメータ

パラメータ	説明
チャンネル	チャンネルを設定します。 2.4GHz：自動、1 – 13 の間 初期値：自動 5GHz: 20 MHz、40 MHz、80 MHz の帯域幅の下：36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140、144 160MHz の帯域幅の下：36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128 初期値：自動 6GHz: 20 MHz、40 MHz、80 MHz、160 MHz、320 MHz の帯域幅の下：1、5、9、13、17、21、25、29、33、37、41、45、49、53、57、61、65、69、73、77、81、85、89、93。 初期値：自動
PSC	PSC は Power Save Class の略称で、6GHz 用のパラメータです。 オン：省電力モードをオンにします。電力を節約するために低消費電力状態になります。 オフ：省電力モードをオフにします。F5748Q は常にアクティブな状態を維持し、データの送受信の準備ができています。

モード	モードを設定します。 2.4GHz: IEEE 802.11b のみ IEEE 802.11g のみ IEEE 802.11n のみ (802.11b/g) (802.11g/n) (802.11b/g/n) (802.11b/g/n/ax) (802.11b/g/n/ax/be) 5GHz: IEEE 802.11a のみ IEEE 802.11n のみ IEEE 802.11ac のみ (802.11a/n) (802.11a/n/ac) (802.11a/n/ac/ax) (802.11a/n/ac/ax/be) サービスメニューにより設定できない場合があります。 6GHz: IEEE 802.11ax のみ (802.11ax/be) サービスメニューにより設定できない場合があります。
-----	--

帯域幅	帯域幅を設定します。 2.4GHz : 自動、20MHz、40MHz 初期値 : 20MHz 5GHz : 自動、20MHz、40MHz、80MHz、160MHz 初期値 : 80MHz 6GHz : 自動、20MHz、40MHz、80MHz、160MHz、320MHz 初期値 : 320MHz
SGI	2.4GHz/5GHz/6GHz : 送信間隔を短くするには、このオプションをオンにします。 オン : オプションを有効にします。 オフ : オプションを無効にします。
ビーコン間隔 (ms)	ビーコン間隔を設定します。 2.4GHz/5GHz/6GHz : 100 ~1000 初期値 : 100
送信出力	必要に応じて送信電力を選択します。 2.4GHz/5GHz/6GHz : 100%、80%、60%、40%、20% 初期値 : 100%
マルチキャスト変換	有効 : マルチキャストからユニキャストに変換する機能を有効にします。 無効 : マルチキャストからユニキャストに変換する機能を無効にします。 初期値 : 有効

TWT	TWT は Target Wakeup Time の略称です。 オン：TWT 機能をオンにします。デバイスはネットワーク スケジューリング メカニズムに従って特定の時間に起動して通信し、それ以外の時間は休止状態のままになります。これにより、デバイスのスタンバイ時間が短縮され、さらに電力が節約されます。 オフ：TWT 機能をオフにします。デバイスは特定のタイム スケジュールに従ってウェイクアップおよびスリープすることはなく、アクティブなままであるか、他のメカニズムに従ってスリープする可能性があります。 初期値：オン
-----	---

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

無線 LAN SSID の設定

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** を選択して、「**無線 LAN SSID の設定**」ページを開きます。

図 5-4 を参照してください。

図 5- 4 無線 LAN SSID の設定ページ

▼ 無線LAN SSIDの設定

▼ 2.4GHz-Pri

☒ オン
☐ オフ

SSID名

SSIDステルス機能
☐ オン
☒ オフ

暗号化タイプ
▼

暗号化キー

ネットワーク分離機能
☐ オン
☒ オフ

SSID内分離
☐ オン
☒ オフ

2. 無線 LAN SSID 設定を設定します。パラメータは 表 5-3 を参照してください。

表 5- 3 無線 LAN SSID 設定のパラメータ

パラメータ	説明
2.4GHz-Pri 2.4GHz-Sec 2.4GHz-Guest 5GHz-Pri 5GHz-Sec 5GHz-Guest 6GHz-Pri 6GHz-Sec 6GHz-Guest	オン : 選択した SSID の設定を有効にします。 オフ : 選択した SSID の設定を無効にします。
SSID 名	SSID の名前を設定します。
SSID ステルス機能	ステルス機能を設定します。 オン : SSID ステルス機能を有効にします。 オフ : SSID ステルス機能を無効にします。 初期値 : オフ
暗号化タイプ	暗号化のタイプを設定します。 セキュリティなし WPA2-PSK(AES)、 WPA/WPA2-PSK(AES)、 WPA3(SAE)、 WPA/WPA2-PSK(AES)/WPA3(SAE)、 WPA2-PSK(AES)/WPA3(SAE)
暗号化キー	暗号化キーを設定します。 文字数 8 – 63 英数記号を用い入力します。

ネットワーク分離機能	それぞれの SSID に接続されている無線 LAN 端末や LAN 側に有線接続された端末間でのアクセスを制限します。 オン：SSID 分離を有効にします。同一 SSID 間接続可能、異なる SSID 間接続不可、LAN 側に有線接続した端末との接続不可、端末から Web GUI にアクセスできません。 オフ：SSID 分離を無効にします。同一 SSID 間接続可能、異なる SSID 間接続可能、LAN 側に有線接続した端末との接続可能です。
SSID 内分離	ネットワーク分離機能を有効（オン）した時のみ設定可能になります。 ネットワーク分離機能に加え、更にセキュリティを高めたい場合、同一の SSID に接続された無線 LAN 端末との通信を制限できます。 オン：制限を有効にします。同じ SSID に接続している無線 LAN クライアント同士は相互にアクセスできません。 オフ：制限を無効にします。同じ SSID に接続している無線 LAN クライアント同士は相互にアクセスできます。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.2.2 バンドステアリングの設定

概要

バンドステアリングの設定方法を説明します。バンドステアリングは、無線 2.4G と無線 5G の切り替えに使用されます。有効にした場合、距離と信号強度に応じて、5G ネットワークと 2.4G ネットワーク間でハンドオーバーが発生します。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** > **バンドステアリング**を選択して、「**バンドステアリング管理**」ページを開きます。図 5-5 を参照してください。

図 5- 5 バンドステアリング管理ページ



▼ バンドステアリング 管理

バンドステアリング ☐ オン ☒ オフ

設定 キャンセル

2. バンドステアリングでは、次の操作を実行できます。

- [オン]を選択すると有効にします。
- [オフ]を選択すると無効にします。
- 初期値：オン

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.2.3 無線 LAN 拡張パラメータの設定

概要

この本節では、無線 LAN 拡張を設定する方法について説明します。

無線 LAN 拡張のパラメータ設定情報を提供します。

手順

アクセス制御モード設定

1. 本製品のメインページから LAN > 無線 LAN > 無線 LAN 拡張を選択して、「アクセス制御-モード設定」ページを開きます。図 5-6 を参照してください。

図 5- 6 アクセス制御モード設定ページ

設定項目	フィルタなし	ブラックリスト	ホワイトリスト
2.4GHz-Pri	☒	☐	☐
2.4GHz-Sec	☒	☐	☐
2.4GHz-Guest	☒	☐	☐
5GHz-Pri	☒	☐	☐
5GHz-Sec	☒	☐	☐
5GHz-Guest	☒	☐	☐
6GHz-Pri	☒	☐	☐
6GHz-Sec	☒	☐	☐
6GHz-Guest	☒	☐	☐

設定 キャンセル

2. **アクセス制御モード**では、次の操作を実行できます。

- 「**フィルタなし**」：SSID のアクセス制限を行いません。
- 「**ブラックリスト**」：登録された SSID からの接続を拒否する時に使用します。
- 「**ホワイトリスト**」：登録された SSID からの接続を許可する時に使用します。
- 初期値：「**フィルタなし**」

3. [**設定**]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

アクセス制御ルール設定

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** > **無線 LAN 拡張**を選択して、「**アクセス制御-ルール設定**」ページを開きます。図 5-7 を参照してください。

図 5- 7 アクセス制御ルール設定ページ

▼ アクセス制御-ルール設定

▼ 新項目

名前

SSID

2.4GHz-Pri ▼

MACアドレス

: : : : :

設定

キャンセル

+ 新しいアイテムを作成する

2. アクセス制御ルールを設定します。パラメータは 表 5-4 を参照してください。

表 5- 4 アクセス制御ルール設定のパラメータ

パラメータ	説明
名前	アクセス制御の名前を設定します。 文字数 1 - 10 英数記号を用い入力します。
SSID	SSID を選択してアクセスを制御する SSID を設定します。
MAC アドレス	無線デバイスの MAC アドレスを設定します。

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

LDPC

1. 本製品のメインページから LAN > 無線 LAN > 無線 LAN 拡張を選択して、「LDPC」ページを開きます。

図 5-8 を参照してください。

図 5- 8 LDPC ページ

▼ LDPC

無線LAN (2.4GHz) ☒ オン ☐ オフ
無線LAN (5GHz) ☒ オン ☐ オフ
無線LAN (6GHz) ☒ オン ☐ オフ

設定

キャンセル

2. LDPC を設定します。パラメータは 表 5-5 を参照してください。

表 5- 5 LDPC のパラメータ

パラメータ	説明
無線 LAN (2.4GHz)	オン : 2.4GHz 帯の LDPC を有効にします。 オフ : 2.4GHz 帯の LDPC を無効にします。 初期値 : オン
無線 LAN (5GHz)	オン : 5GHz 帯の LDPC を有効にします。 オフ : 5GHz 帯の LDPC を無効にします。 初期値 : オン
無線 LAN (6GHz)	オン : 6GHz 帯の LDPC を有効にします。 オフ : 6GHz 帯の LDPC を無効にします。 初期値 : オン

※一部の古い装置では、LDPC 機能を実装していないものがあります。その場合は、Wi-Fi の接続が出来ないことがあります。ただし、LDPC 機能をオフにすることで、Wi-Fi 接続が出来る場合があります。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.2.4 WPS の設定

概要

WPS の設定方法を説明します。

WPS は、Wi-Fi Alliance が策定した無線 LAN の接続設定を簡単に行う規格です。本製品は、WPS 対応した無線 LAN 端末の自動設定を行うことができます。WPS の詳細設定は、無線 LAN 2.4GHz 帯と無線 LAN 5GHz 帯のそれぞれで設定が可能です。ここでは、2.4GHz 帯の設定方法を説明します。

手順

WPS でセットアップを行う

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** > WPS を選択して、「WPS」ページを開きます。図 5-9 を参照してください。

図 5- 9 WPS コントロール



2. 「**セットアップ**」をクリックして、WPS 機能を有効にします。

WPS 機能を有効にする

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** > WPS を選択して、「WPS」ページを開きます。図 5-10 を参照してください。

図 5- 10 WPS ページ

▼ WPS

[WPSの設定時に注意すべき点は何ですか？](#)

▼ 2.4GHz

WPSモード

設定

▼ 5GHz

WPSモード

設定

2. WPS は次の操作できます。

- [有効]を選択すると有効にします。
- [無効]を選択すると無効にします。
- 初期値：有効

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.2.5 WPS を使った SSID 引継ぎ機能

概要

本製品では、WPS を使い SSID を引継ぐ機能を利用することで Wi-Fi 設定を手動で変更することなく

既存の親機を本製品に入れ替えることが出来ます。ここではその手順を説明します。

※この機能を利用する場合は本製品を AP モードから STA モードに切り替える必要があります。

※既存の親機の WPS 機能を有効にする方法は、親機取扱説明書をご確認ください。

2.4G の SSID だけ引継ぐ

手順

1. 本製品が AP モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し、再起動することで STA モードに切り替わります。

※STA モードに切り替わります。稼働中はステータス LED が緑赤点滅状態になります。

2. 既存の親機の WPS 機能を有効にする。
3. 本製品の WPS ボタンを押す（1 秒以内）と、自動に既存の親機で設定されている 2.4GHz の SSID/PW が本製品の SSID2 に引継がれます。
4. 本製品が STA モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し再起動することで AP モードに切り戻ります。

5G の SSID だけ引継ぐ

手順

1. 本製品が AP モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し、再起動することで STA モードに切り替わります。

※STA モードに切り替わります。稼働中はステータス LED が緑赤点滅状態になります。

2. 既存の親機の WPS 機能を有効にする。
3. 本製品の WPS ボタンを押す（3 秒以上、20 秒以内）と、自動に既存の親機で設定されている 5GHz の SSID/PW が本製品の SSID5 に引継がれます。
4. 本製品が STA モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し再起動することで AP モードに切り戻ります。

2.4G と 5G の両方の SSID を引継ぐ

手順

1. 本製品が AP モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し、再起動することで STA モードに切り替わります。

※STA モードに切り替わります。稼働中はステータス LED が緑赤点滅状態になります。

2. 既存の親機の WPS 機能を有効にする。
3. 本製品の WPS ボタンを押す（1 秒以内）と、自動に既存の親機で設定されている 2.4GHz の SSID/PW が本製品の SSID2 に引継がれます。

4. 再度、既存の親機の WPS 機能を有効にする。
5. 本製品の WPS ボタンを押す（3 秒以上、20 秒以内）と、自動に既存の親機で設定されている 5GHz の SSID/PW が本製品の SSID5 に引継がれます。
6. 本製品が STA モードの状態から WPS ボタンを 20 秒以上押下し、20 秒経過した時点ですべての LED が 2 秒間点灯し再起動することで AP モードに切り戻ります。

5.2.6 Mesh Wi-Fi の設定

概要

Mesh 機能は複数の AP（Access Point）を接続することで広範囲で Wi-Fi サービスを提供します。

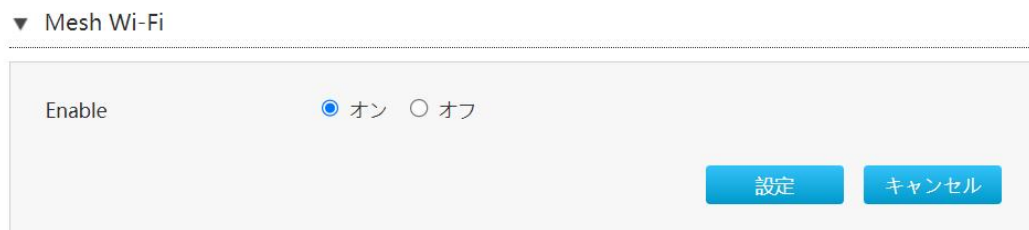
※メッシュ Wi-Fi サービス申し込みのお客様のみ有効な設定です。

メッシュ Wi-Fi サービス申し込み済みでも提供形態により表示されない場合があります。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > **無線 LAN** > Mesh Wi-Fi を選択し、「Mesh Wi-Fi」ページを開きます。図 5-11 を参照してください。

図 5- 11 Mesh Wi-Fi



▼ Mesh Wi-Fi

Enable ☒ オン ☐ オフ

設定 キャンセル

2. Mesh 機能を設定します。パラメータは表 5-6 を参照してください。

表 5- 6 MESH パラメータの説明

パラメータ	説明
Enable	オン：Mesh 機能を有効にします。 オフ：Mesh 機能を無効にします。

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.2.7 無線 LAN モードステータスの確認

概要

無線 LAN モードのステータス確認方法を説明します。

本製品は、AP（アクセスポイント）モードと STA モードが存在します。

AP（アクセスポイント）モード：無線でスマートフォンやノートパソコン、ゲーム機などの端末をインターネットに接続させるための機能になります。

STA（ステーション）モード：既存の親機の SSID を引継ぐために一時的な動作モードで、通常は使用されません。（STA モードの状態では本製品を再起動すると自動的に AP モードに切り戻ります。）

初期値では、AP（アクセスポイント）モードが適用されています。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > 無線 LAN > 無線 LAN モードステータスを選択して、「無線 LAN モードステータス」ページを開きます。図 5-12 を参照してください。

図 5- 12 無線 LAN モードステータスページ

通常（AP モード）

▼ 無線LANモードのステータス

無線LANモードのステータス	APモード
----------------	-------

現在の状態を表示

STA モードに切り替え後

▼ 無線LANモードのステータス

無線LANモードのステータス	STAモード
----------------	--------

現在の状態を表示

2. [現在の状態を表示]をクリックし、情報を更新します。

5.2.8 MLO

概要

MLO（Multi-Link Operation、マルチリンクオペレーション）を設定する主な目的は、F5748Q のワイヤレス ネットワーク パフォーマンスを向上させ、より安定した高速ネットワーク接続を実現することです。MLO を使用すると、デバイスは複数の Wi-Fi ホットスポットまたは帯域（2.4 GHz 帯域と 5 GHz 帯域を同時に接続したり、異なる Wi-Fi ソースに同時に接続したりするなど）に同時に接続できます。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > 無線 LAN > MLO を選択して、「MLO」ページを開きます。図 5-13 を参照してください。

図 5- 13 MLO



2. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.3 LAN (IPv4)の設定

概要

LAN (IPv4) の設定方法を説明します。

インターネットステータスの関連情報には、割り当てアドレス (DHCP) 、DHCP サーバー、DHCP

バインディング、DHCP ポート制御が含まれます。

手順

割り当てアドレス (DHCP)

1. 本製品のメインページから LAN > LAN を選択して、「割り当てアドレス (DHCP)」ページを開きます。

図 5-14 を参照してください。

図 5- 14 割り当てアドレス(DHCP)ページ

▼ 割り当てアドレス (DHCP)

ホスト名	MACアドレス	IPアドレス	ポート	リース残時間
LAPTOP-5OEIHSLV	90:2e:16:ed:58:ba	192.168.0.2	LAN1	23 時 14 分 35 秒
AP68E1DC538280	68:e1:dc:53:82:80	192.168.0.3	LAN2	23 時 22 分 49 秒
APC436C01E0C50	c4:36:c0:1e:0c:50	192.168.0.4	LAN3	23 時 23 分 27 秒

現在の状態を表示

2. [現在の状態を表示]をクリックし、情報を更新します。

DHCP サーバー

1. 本製品のメインページから LAN > LAN を選択して、「DHCP サーバー」ページを開きます。図 5-15 を参照してください。

図 5- 15 DHCP サーバーページ

▼ DHCPサーバー

DHCPサーバー	☒ オン ☐ オフ
LAN側IPアドレス	192 . 168 . 0 . 1
サブネットマスク	255 . 255 . 255 . 0
DHCP割当開始IPアドレス	192 . 168 . 0 . 2
DHCP割当終了IPアドレス	192 . 168 . 0 . 101
手動DHCP-DNS設定	☐ オン ☒ オフ
プライマリDNSサーバ	192 . 168 . 0 . 1
セカンダリDNSサーバ	0 . 0 . 0 . 0
リース期間モード	カスタム ▼
リース期間 (秒)	86400
WINSサーバアドレス	

設定 キャンセル

2. DHCP サーバーを設定します。パラメータは表 5-7 を参照してください。

表 5- 7 DHCP サーバーのパラメータ

パラメータ	説明
DHCP サーバー	本製品を DHCP サーバーとして機能させ、IP アドレスをクライアント PC または無線デバイスに割り当てます。 オン : DHCP サーバー機能を有効にします。 オフ : DHCP サーバー機能を無効にします。
LAN IP アドレス	LAN IPv4 のアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを表示します。
DHCP 割当開始 IP アドレス	DHCP アドレスプールの開始 IP アドレスを表示します。
DHCP 割当終了 IP アドレス	DHCP アドレスプールの終了 IP アドレスを表示します。
手動 DHCP DNS サーバー	オン : 手動 DHCP DNS 機能が有効にします。 オフ : 手動 DHCP DNS 機能が無効にします。 初期値 : オフ
プライマリ DNS サーバー	ISP から提供された DNS サーバーの IP アドレスを表示します。
セカンダリ DNS サーバー	ISP から提供された DNS サーバー 2 の IP アドレスを表示します。
リース期間モード	リースタイムのモードを選択します。 カスタム : リース期間（秒）で時間設定を可能にします。 無限 : リース期間は無制限にします。
リース期間（秒）	リース期間モードをカスタムに設定したときのみ、設定が可能です。 クライアント PC が DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスを使用している時間を設定します。リース期限が切れると、プライベート IP アドレスは他のネットワークデバイスに割り当てられるようになります。 初期値 : 86400 範囲 : 60 ~ 157680000

WINS サーバアドレス	WINS サーバーの IPv4 アドレスを入力します。
--------------	-----------------------------

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

DHCP バインディングページ

1. 本製品のメインページから LAN > LAN を選択して、「DHCP バインディング」ページを開きます。図 5-16 を参照してください。

図 5- 16 DHCP バインディングページ

▼ DHCPバインディング

▼ 新項目

名前

MACアドレス

IPアドレス

:

:

:

:

.

.

.

設定

キャンセル

+

新しいアイテムを作成する

2. DHCP バインディングを設定します。パラメータは表 5-8 を参照してください。

表 5- 8 DHCP バインディングページのパラメータ

パラメータ	説明
名前	DHCP バインディングの名前を設定します。 文字数 1 - 10 英数記号を用い入力します。
MAC アドレス	DHCP バインディングの MAC アドレスを設定します。
IP アドレス	DHCP バインディングの IP アドレスを設定します。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.4 ルーティングの設定

5.4.1 ルーティング設定(IPv4)

概要

ルーティング（IPv4）の設定方法について説明します。

静的ルーティング構成中に、ゲートウェイを静的モードインターフェースまたは IPoA モードインターフェース用に構成する必要があります。

静的ルーティングの構成時に、ゲートウェイを PPPoE モードのインターフェース用に構成する必要はありません。

インターネットステータスの関連情報には、**ルーティングテーブル**、**静的ルーティング**、**ポリシールーティング**が含まれます。

静的ルーティングを構成する前に、IPv4 WAN 接続が作成されていることを確認してください。

手順

ルーティングテーブル

1. 本製品のメインページから LAN > **ルーティング** > IPv4 を選択して、「**ルーティングテーブル**」ページを開きます。図 5-17 を参照してください。

図 5- 17 ルーティングテーブルページ

▼ ルーティングテーブル

ネットワークアドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ	インタフェース
192.168.0.0	255.255.255.0	0.0.0.0	LAN

現在の状態を表示

2. [現在の状態を表示]をクリックし、情報を更新します。

静的ルーティング

1. 本製品のメインページから LAN > **ルーティング** > IPv4 を選択して、「**静的ルーティング**」ページを開きま

す。図 5-18 を参照してください。

図 5- 18 静的ルーティングページ

▼ 静的ルーティング

静的ルーティングを設定する際に注意すべき点は何ですか？

▼ 新項目

名前

インターフェース

ネットワークアドレス

サブネットマスク

ゲートウェイ

選んでください。▼

設定

キャンセル

+

 新しいアイテムを作成する

2. 静的ルーティングを設定します。パラメータは 表 5-9 を参照してください。

表 5- 9 静的ルーティングのパラメータ

パラメータ	説明
名前	静的ルーティングエントリの名前を設定します。 文字数 1～21 英数記号を用い入力します。
インターフェース	静的ルーティングのためのインターフェースを設定します。 LAN ：ネクストホップへが、本製品の LAN 側に接続している場合に選択します。
ネットワークアドレス	宛先ネットワークの IP アドレス。ネットワークアドレスとサブネットマスクの両方が 0.0.0.0 の場合、この構成は初期値のルーティングになり、どの宛先アドレスにも有効です。
サブネットマスク	宛先ネットワークのサブネットマスクを設定します。
ゲートウェイ	ネットワークインターフェースが属するネットワークセグメントのゲートウェイを設定します。

3. [設定]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

ポリシールーティング

ユーザーが独自に設定した特定の経路にデータを転送することです。ポリシールーティングにより、通信経路の負荷を分散したり重要な帯域を保証したりすることができ、ネットワークの運用をより効率的に実現できます。

パラメータ	説明
名前	ポリシールーティングエントリの名前を設定します。 文字数 1～21 英数記号を用い入力します。
インターフェース	ポリシールーティングのためのインターフェースを設定します。 LAN : ネクストホップへが、本製品の LAN 側に接続している場合に選択します。
送信元 IP アドレス	合致するパケットの送信元 IP アドレスを設定します。
送信元マスク	合致するパケットの送信元マスクを設定します。
宛先 IP アドレス	合致するパケットの宛先 IP アドレスを設定します。
宛先マスク	合致するパケットの宛先マスクを設定します。
プロトコル	プロトコルを設定します。 任意 : TCP、UDP、ICMP を有効にします。 TCP : ポリシーに TCP を設定します。 UDP : ポリシーに UDP を設定します。 ICMP : ポリシーに ICMP を設定します。 初期値 : 任意
送信元 MAC アドレス	合致するパケットを送信する送信元デバイスの MAC アドレス。

1. 本製品のメインページから LAN > ルーティング > IPv4 を選択して、**ポリシールーティング**をクリックし、「**ポリシールーティング**」ページを開きます。図 5-19 を参照してください。

図 5- 19 ポリシールーティングページ

▼ ポリシールーティング

▼ 新項目

名前

インタフェース

選んでください。▼

送信元IPアドレス

送信元マスク

宛先IPアドレス

宛先マスク

プロトコル

任意▼

送信元MACアドレス

設定

キャンセル

+

 新しいアイテムを作成する

2. **ポリシールーティング**を設定します。パラメータは 表 5-10 を参照してください。

表 5- 10 ポリシールーティングのパラメータ

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

Note:

ポリシールーティング構成オプションは、プロトコル値によって異なります。

5.4.2 ルーティング設定(IPv6)

概要

ルーティング (IPv6) の設定方法について説明します。

インターネットステータスの関連情報には、**ルーティングテーブル**、**静的ルーティング**、および**ポリシールーティング**が含まれます。

手順

ルーティングテーブル

1. 本製品のメインページから **LAN > ルーティング > IPv6** を選択して、「**ルーティングテーブル**」ページを開きます。図 5-20 を参照してください。

図 5- 20 ルーティングテーブルページ

▼ ルーティングテーブル

プレフィックス	ゲートウェイ	インタフェース
fe80::e67e:9aff:fe7f:41e8/128	::	LAN
fe80::/64	::	LAN

現在の状態を表示

2. **[現在の状態を表示]**をクリックし、情報を更新します。

静的ルーティング

ユーザーが独自に設定した特定の経路に従って固定的に経路選択を行い常に決まった経路でパケット が送信されます。

1. 本製品のメインページから **LAN > ルーティング > IPv6** を選択して、「**静的ルーティング**」ページを開きます。図 5-21 を参照してください。

図 5- 20 静的ルーティングページ

▼ 静的ルーティング

[静的ルーティングを設定する際に注意すべき点は何ですか？](#)

▼ 新項目

名前

インタフェース

選んでください。▼

プレフィックス

/

ゲートウェイ

設定

キャンセル

+

 新しいアイテムを作成する

2. **静的ルーティング**を設定します。パラメータは 表 5-11 参照してください。

表 5- 11 静的ルーティングのパラメータ

パラメータ	説明
名前	静的ルーティングエントリの名前を設定します。 文字数 1～21 英数記号を用い入力します。
インターフェース	静的ルーティングのためのインターフェースを設定します。 LAN : ネクストホップへが、本製品の LAN 側に接続している場合に選択します。 コミュファ : ネクストホップへが、本製品の WAN 側に接続している場合に選択します。
プレフィックス	プレフィックスは、IPv6 インターフェースのネットワークセグメントと合致しています。 プレフィックスが:: / 0 の場合、この構成は初期値のルーティングで、任意の宛先アドレスに有効です。
ゲートウェイ	ネットワークインターフェースが属するネットワークセグメントのゲートウェイを設定します。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

ポリシールーティング

ユーザーが独自に設定した特定の経路にデータを転送することです。ポリシールーティングにより、通信経路の負荷を分散したり重要な帯域を保証したりすることができ、ネットワークの運用をより効率的に実現できます。

1. 本製品のメインページから **LAN > ルーティング > IPv6** を選択して、「**ポリシールーティング**」ページを開きます。図 5-22 を参照してください。

図 5- 21 ポリシールーティングページ

▼ ポリシールーティング

▼ 新項目

名前

インタフェース

選んでください。▼

送信元IPアドレス

 / 128

宛先IPアドレス

 / 128

プロトコル

任意▼

送信元MACアドレス

:::::

設定

キャンセル

+

 新しいアイテムを作成する

2. **ポリシールーティング**を設定します。パラメータは

3. 表 5-12 を参照してください。

表 5- 6 ポリシールーティングのパラメータ

パラメータ	説明
名前	ポリシールーティングエントリの名前を設定します。 文字数 1～21 英数記号を用い入力します。

インターフェース	ポリシールーティングのためのインターフェースを設定します。 LAN : ネクストポップが、本製品の LAN 側に接続している場合に選択します。 コムファ : ネクストポップが、本製品の WAN 側に接続している場合に選択します。
送信元 IP アドレス	合致するパケットの送信元 IP アドレスを入力します。
宛先 IP アドレス	合致するパケット宛先 IP アドレスを入力します。
プロトコル	プロトコルを設定します。 任意 : TCP、UDP を有効にします。 TCP : ポリシーに TCP を設定します。 UDP : ポリシーに UDP を設定します。
送信元 MAC アドレス	合致するパケットを送信する送信元デバイスの MAC アドレスを入力します。

4. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.5 UPnP の設定

概要

UPnP の設定方法について説明します。

ネットワーク機器間の相互自動認識する機能です。本機能により **UPnP** 機能対応アプリケーションを、

NAT による **IP** アドレスやポート番号の変換を気にすることなく、且つ、複数のパソコンから同時に利用できます。

手順

1. 本製品のメインページから **LAN > UPnP** を選択して、「**UPnP**」ページを開きます。 図 5-23 を参照してください。

図 5- 22 UPnP ページ

▼ UPnP

UPnP		☒ オン ☐ オフ
IPv4		
アドバタイズメント周期	30	分
アドバタイズメント継続時間	4	hop
		設定 キャンセル

2. **UPnP** を設定します。パラメータは表 5-13 を参照してください。

表 5- 7 UPnP のパラメータ

パラメータ	説明
UPnP	オン : UPnP 機能を有効にします。 オフ : UPnP 機能を無効にします。 初期値 : オン
アドバタイズメント周期	UPnP デバイスがアナウンスパケットを送信する期間。この期間中に UPnP デバイスがアナウンスパケットを送信しない場合、デバイスが無効であることを示しています。 初期値 : 30 分
アドバタイズメント継続時間	アドバタイズメントの TTL。アドバタイズメントは、ルータによって指定された回数だけ転送された後に破棄されます。 初期値 : 4 範囲 : 1 ~ 255 hop

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

5.6 PPPoE ブリッジの設定

概要

PPPoE **ブリッジ**の設定方法について説明します。

この機能は、PPPoE プロトコルを搭載している端末などを接続するため、PPPoE のパケットを通過させることができます。

手順

1. 本製品のメインページから LAN > PPPoE **ブリッジ**を選択して、「PPPoE **ブリッジ**」ページを開きます。図 5-24 を参照してください。

図 5- 23 PPPoE ブリッジページ

▶ PPPoEブリッジ

PPPoEブリッジ

☒ オン ☐ オフ

設定

キャンセル

2. PPPoE **ブリッジ**を設定します。パラメータは表 5-14 を参照してください。

表 5- 8 PPPoE ブリッジのパラメータ

パラメータ	説明
PPPoE ブリッジ	PPPoE のブリッジ機能を設定します。 オン : PPPoE ブリッジ機能を有効にします。 オフ : PPPoE ブリッジ機能を無効にします。 初期値 : オン

3. [**設定**]をクリックし、選択したパラメータを反映します。

第 6 章

管理&診断

6.1 システム管理の利用

6.1.1 デバイス管理

概要

デバイスを再起動する方法および工場出荷時の初期値設定を復元する方法を説明します。

手順

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > システム管理 > デバイス管理** を選択し、「**デバイス管理**」ページを開きます。図 6-1 を参照してください。

図 6- 1 デバイス管理ページ

▼ リブート機能

この操作完了後、本装置は自動的に再起動します。

注：再起動操作は、現在のすべてのサービスを中断します。

リブート

▼ リセット機能

工場出荷時のリセット：すべてのパラメータ設定が工場出荷時の状態に戻ります。この操作が完了すると、デバイスは自動的に再起動します。

注：この操作が終了すると、すべての設定が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

リセット

2. **デバイス管理**では、次の操作を実行できます。

- リブート機能：[リブート]をクリックすると本製品が再起動します。
- リセット機能：[リセット]をクリックすると工場出荷時の初期設定に戻ります。

6.1.2 ソフトウェアアップグレード方法

概要

ソフトウェアのアップグレード方法を説明します。

前提条件

ソフトウェアをアップグレードする前に、アップグレードファイルの準備ができていることを確認してください。

手順

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > システム管理 > ソフトウェアアップグレード** を選択し、「ソフトウェアアップグレード」ページを開きます。図 6-2 を参照してください。

図 6- 2 ソフトウェア アップグレードページ

▼ ソフトウェアのアップグレード

i アップグレード後にデバイスが再起動します。

ソフトウェアのバージョンファイルを選択してください：

ファイルを選択

選択されていません

アップグレード

2. [ファイルを選択]をクリックして、アップグレードするソフトウェアのバージョンを選択します。

3. [アップグレード]をクリックします。

Note:

- アップグレードの進捗状況が表示されます。アップグレード中は本製品を損傷する可能性がありますので、電源を切らないでください。ユーザーがソフトウェアをアップグレードする場合は、サービス提供元にご相談ください。
- 自動でアップグレードされるため、通常はお客さままでご利用いただくことはありません

6.1.3 ECO モード管理設定

概要

ECO モードを設定する主な目的は、家庭がエネルギー消費を削減し、電気代を削減し、環境に有益になることです。ECO モードの開始時刻と終了時刻を設定することで、ピーク電力が不要な時間帯のホームゲートウェイや接続機器の電力使用量を自動調整し、省エネ効果を実現します。

手順

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > システム管理 > ECO モード管理** を選択し、「ECO モード」ページを開きます。図 6-3 を参照してください。

図 6- 3 ECO モード設定ページ

▼ ECOモード設定

ECOモード設定

ノーマル

ECO スケジュール

☐ オン ☒ オフ

ECO 開始

00

時

00

分

ECO 終了

00

時

00

分

ECO1: CPU速度を低下させ、10G LAN の速度を1Gbps に制限し、各無線LANをオフにします。

ECO2: CPU速度を低下させ、10G LAN の速度を1Gbps に制限し、各無線LANをオフにします。Power、光電話、電話 1、電話 2 以外のLEDを消灯します。

ECO3: 7月～9月スケジュールの指定時間帯、CPU速度を低下させ、10G LAN の速度を1Gbps に制限します。

ECO4: 10GLANポートのリンク速度が一時的に10Gから1Gに低下し、CPU周波数が低下し、LEDが全消灯になります。

設定

キャンセル

2. ECO モードを設定します。パラメータは、表 6-1 を参照してください。

表 6- 1 ECO モード設定パラメータ

パラメータ	説明
ECO モード設定	ECO1：CPU 速度を低下させ、10G LAN の速度を 1Gbps に制限します。
	ECO2：CPU 速度を低下させ、10G LAN の速度を 1Gbps に制限します。 Power、光電話、電話 1、電話 2 以外の LED を消灯します。
	ECO3：7 月～9 月の 10：00～15：00 の間、CPU 速度を低下させ、 10G LAN の速度を 1Gbps に制限します。
	ECO4：10G LAN ポートのリンク速度が一時的に 10G から 1G に低下し、 CPU 周波数が低下し、LED が前照灯になります。

ECO スケジュール	オン：ECO モードのタイミング機能をオンにすると、F5748Q は設定された開始時刻と終了時刻に従って自動的に ECO モードに移行し、終了します。 オフ：ECO モードのタイミング機能をオフにしても、F5748Q は自動的に ECO モードに入りませんが、ユーザーは手動でオンにすることができます。
ECO 開始 /ECO 終了	ECO モードの開始時刻と終了時刻を設定します。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

6.1.4 設定値の保存と復元

概要

ユーザー設定を保存または復元する方法を説明します。ユーザー設定とは、工場出荷時の初期値に基づいてカスタマイズされた設定値のことです。ユーザーはご自分の要件に基づいてデバイス設定ができ、また、その設定をバックアップしておくことができます。

手順

1. 本製品のメインページから **管理 & 診断 > システム管理 > 設定値の保存と復元** を選択し、「設定値の保存」「設定値の復元」ページを開きます。図 6-4 を参照してください。

図 6- 4 設定値の保存と復元ページ

▼ 設定値の保存

ファイルへ保存

▼ 設定値の復元

設定ファイルを選択してください。

ファイルを選択

選択されていません

設定値の復元

2. **ユーザー設定管理**では、次の操作を実行できます。

- 保存：「設定値の保存」ページで[ファイルへ保存]をクリックして現状の設定を保存します。
- 復元：「設定値の復元」ページで[ファイルを選択]をクリックして復元するファイルを選択し、[設定値の復元]をクリックすると、保存していた設定が復元します。

Note:

ユーザー設定を復元させた際、本製品はリスタートします。

6.2 管理者パスワードの管理

概要

ユーザーアカウントと権限を管理する方法を説明します。

手順

1. 本製品のメインページから **管理 & 診断** > **アカウント管理** を選択し、「管理者パスワードの管理」ページを開きます。図 6-5 を参照してください。

図 6- 5 管理者パスワードの管理ページ

▼ 管理者パスワードの管理

ユーザー名	admin
旧パスワード	
新パスワード	
パスワードの確認	

2. **ユーザーアカウント管理**を設定します。パラメータは、表 6-2 を参照してください。

表 6- 1 ユーザーアカウント管理のパラメータ

パラメータ	説明
ユーザー名	管理者権限ユーザー名は、admin で固定されています。
旧パスワード	旧パスワードを入力します。
新パスワード	新パスワードを入力します。 パスワードは、次の規則に従う必要があります： 1.文字数：6 文字以上 64 文字以下 2.使用可能文字：半角の数字、英字（大文字／小文字）、記号を用いる必要があります <注> ユーザー名/初期ログイン時パスワードやそれらの逆順の値などは設定しないでください。 設定したパスワードは必ず忘れないように控えておいてください。 ※パスワードを忘れた場合は、リセットする必要があります。
パスワードの確認	新パスワードで設定したパスワードを入力します。

3. **[設定]**をクリックして変更を反映します。

6.3 ログ管理

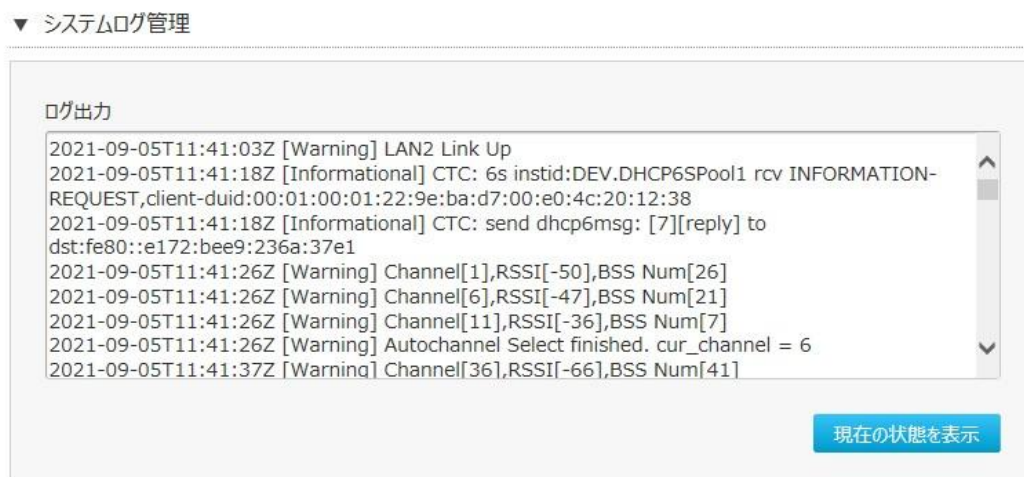
概要

ログの管理方法を説明します。

手順

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > ログ管理**を選択し、「**システムログ管理**」ページを開きます。図 6-6 を参照してください。

図 6- 6 システムログ管理ページ



2. **システムログ管理**を設定します。パラメータは表 6-3 を参照してください。

表 6- 2 システムログ管理パラメータ

パラメータ	説明
現在の状態を表示	最新のログを表示します。

システムログ管理で管理されるログ一覧：

項目	出力内容	ログフォーマット
DHCPv6 クライアント ト	Request の再送 がリトライアウト時	Run6CExSm instid:DEV.V6DHCP.Client1,rcv event:EV_EXCH_TIMEOUTon state:EXCH_STATE_SOLICIT
	Solicit 送信時	dhcp6c instid:DEV.V6DHCP.Client1, ExchSm xid:0x1e435e, Action:send DHCP_MSG_SOLICIT packet
	Advertise 受信 時	MsgType:DHCP_MSG_ADVERTISE
	Request 送信時	dhcp6c instid:DEV.V6DHCP.Client1, ExchSm xid:0xd4ce5d, Action:send DHCP_MSG_REQUEST packet
	Reply 受信時	MsgType:DHCP_MSG_REPLY
	Reconfigure 受 信時	MsgType:DHCP_MSG_RECONFIGURE
	Renew 送信時	dhcp6c instid:DEV.V6DHCP.Client1, ExchSm

		xid:0xd4ce5d, Action:send DHCP_MSG_RENEW packet
	Rebind 送信時	dhcp6c instid:DEV.V6DHCP.Client1, ExchSm xid:0xd4ce5d, Action:send DHCP_MSG_REBIND packet
DHCPv6 サーバー	Solicit 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv SOLICIT,client- duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b
	Advertise 送 信 時	send dhcp6msg: [2][advertise] to dst:fe80::1003:c15c:21bc:d85d
	Request 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv REQUEST,client- duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b
	Reply 送信時	send dhcp6msg: [7][reply] to dst:fe80::1003:c15c:21bc:d85d
	Renew 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv RENEW,client- duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b
	Rebind 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv REBIND,client- duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b
	Release 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv RELEASE,client- duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b

	Information-Request 受信時	6s instid:DEV.DHCP6SPool1 rcv INFORMATION-REQUEST,client-duid:00:01:00:01:24:19:28:aa:38:83:45:e8:94:0b
	Reconfigure 送信時	send reconfigure msg:
DHCPv4 サーバー	LAN 側端末に IP アドレス付与時	AddOfferedRecord start, mac [38:83:45:e8:94:0b],ip [192.168.1.2]
	配布する IP アドレス枯渇時	ippool full,pool [DefaultPool] [DEV.V4DHCP.Server.Pool1]
	クライアント情報削除時	del Lan adev_dev, delNum is
IPv6	IP アドレス重複検出時	DADMsg:ADDR6_DAD_FAIL,dev: ,addr:
	RA 送信時(本装置では、RS 受信時に対する RA 送信時のみ表示に変更)	Handle RS: send RA currently.
	RS 受信時	Recv RS.Ip:

PPP	Configure-NAK 受信時	IPCP: Rcvd Configure-Nak for code 3, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	Configure- Reject 受信時	IPCP: Rcvd Configure-Reject for code 4, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	IPCP Configure-NAK 送信時	IPCP: Send packet for code 3, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	IPCP Configure- Reject 送信時	IPCP: Send packet for code 4, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	Configure-NAK 受信時	IPV6CP : Rcvd Configure-Nak for code 3, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	Configure- Reject 受信時	IPV6CP : Rcvd Configure-Reject for code 4, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	IPv6CP Configure-NAK 送信時	IPV6CP : Send packet for code 3, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	IPv6CP Configure-	IPV6CP : Send packet for code 4, id 1(pppd:1640)(name:xxx)

	Reject 送信時	
	LCP Configure-Request 送信 retry out 時	LCP: timeout sending Config-Requests(name:xxx)
	PAP 認証エラー時	PAP authentication failed(pppd:2228)(name:xxx)
	CHAP 認証エラー 時	CHAP authentication failed(pppd:2317)(name:xxx)
	PAP 認証成功時	PAP authentication succeeded(pppd:2235)(name:xxx)
	CHAP 認証成功 時	CHAP authentication succeeded(pppd:2276)(name:xxx)
	自動認証機能に て認証方式変更 時	[] AuthType is changed to =
	LCP Terminate-Request 送信時	LCP: Send packet for code 5, id 1(pppd:1640)(name:xxx)
	LCPTerminate-Request 受信時	LCP: Rcvd Terminate-Req, id 1(pppd:1640)(name:xxx)

	PPP 切断	PPP(XX) StopCause[XX] PPP(XX) ConnError[XX]
PPPoE	PPPoE Discovery 完了 時 (PADS 受信 時)	recv PADS, Session is 12150(pppd:2325)(name:xxx)
	PADT 受信時	PADT Received
	PADT 発信時	send PADT, Session is X
	不正 PPPoE メッ セージ受信時	Invalid PPPoE packet (pppd:2417)(name:xxx)
	BAS から応答が 無い時	Unable to complete PPPoE Discovery(pppd:2417)(name:xxx)
HTTP ア クセス	Basic 認証に失 敗時	Basic Authenticate Fail!
リモートメ ンテナンス	リモートメンテナンス 許諾状態	Remote maintenance start!
	リモートメンテナンス 拒否状態	Remote maintenance end!

	リモートメンテナンス 許諾処理中	Remote maintenance is being processed.
無 線 LAN	AssocRequest 受信	RECV Assoc from 00:11:22:33:44:55
	Assoc 失敗	RECV Assoc from 00:11:22:33:44:55 Fail,Status:X
	DisassocReque st 受信	RECV DisAssoc from 00:11:22:33:44:55, reason[X]
	ReassocReques t 受信	RECV ReAssoc from 00:11:22:33:44:55
	Disassoc 送信	Send DisAssoc to 00:11:22:33:44:55 ,Reason:X
	4-way handshake 成功	[XX]4-Way handshake success
	4-way handshake 失敗	4-Way handshake fail
	AuthRequest 受 信	RECV Auth from 00:11:22:33:44:55
	Auth 成功	Auth from 00:11:22:33:44:55 Success

	Auth 失敗	Auth from 00:11:22:33:44:55 Fail, Status[X]
	Deauth 受信	RECV Deauth from 00:11:22:33:44:55, reason[X]
	Deauth 送信	Send Deauth to 00:11:22:33:44:55 ,Reason:X
	自動チャンネル選択 実行時の各チャネ ルの受信レベル (2.4GHz)	Channel[1], RSSI[-75], BSS Num[6]
	自動チャンネル選択 実行時の各チャネ ルの AP 検出数と 受信レベル (5GHz)	Channel[36], RSSI[-50], BSS Num[2]
	自動チャンネル選択 完了時	Autochannel Selected finished, cur channel = X
	Stuck Beacon 検出時	SSIDX Beacon Stuck Detected!
	送信 Stuck 検出 時	SSIDX Beacon Stuck Recovered!

	チャンネル選択	Changing to XX channel XX (XX MHz)
	レーダー	Radar found on Ch=XX, BW=XX. Update Uniform Ch=XX, BW=XX
WPS	WPS 起動失敗 (無線 LAN 機能 オフ)	[XX] WPS Start Fail(WLAN Configuration not support WPS).
	WPS 起動失敗 (MAC フィルタリ ングリスト:32 件)	[XX] WPS Start Fail(MAC Filter List is in use).
	WPS(PBC)成功	WPS PBC Success!
	WPS(PBC)失敗 (timeout)	[XX]WPS PBC timeout!
	WPS(PBC)失敗 (SessionOverla p 検出)	[XX]WPS PBC Overlap detected!
	WPS(外 部 registrar) 登 録 規制解除	[XX]WPS Setuplock disabled.

IF 状態	LAN/WAN Link Down	LANXX Link Down/PON Los State
	LAN/WAN Link Up	LANXX Link Up/PON Los Clear
フェールセ ーフ	高温保護機能ログ	Wifi1 sensor temperature: XX, last level: 0, current level: 1 (wifi 温度は閾値になった) Wifi1 sensor temperature: XX, last level: 1, current level: 0 (wifi 温度は正常に戻す) LEVER 1 Alarm: CPU temperature is higher than normal,temperature is XX C CPU is overheating,reboot, temperature is XX C. Recover Alarm: CPU temperature is back to normal,temperature is XX C
Voice	迷惑電話のクエリ のタイムアウトまたはエラー応答を受信時	teldb - 1.ntc: teldb access timeout or error
OAM	OAM メッセージ送信失敗	send oam msg failed errno : XX
	MPCP down メッ	rcv a mpcpdown

	セージ受信	
	識別できないメッセージ受信	unknown blv: XX
リブート	WATCHDOG に よって再起動	WATCHDOG Event reboot
	リセット	local reset(%s) remote reset(%s)
	リブート	reboot for media(%s) reboot for module(%s) msg: %s
Mesh	multiapd プロセス起動	multiapd 684 already running. MultiapStart 684 start success. multiapd start failed,ret -1.
	multiapd プロセス終了	multiapd 684 stop success. multiapd 684 stopped. multiapd stop failed,ret -1. MultiapStop process not start yet.
	multiapd プロセス再起動	multiapd is restarting... multiapd 684 will restart...

		MultiapRestart stop failed,ret -1.
	agent オンライン	====DEV_ON====, Mac: 01:02:03:04:05:06. DEV ONLINE REPORT RECV: 01:02:03:04:05:06
	agent オフライン	====DEV_OFF====, Mac: 01:02:03:04:05:06. DEV OFFLINE REPORT RECV: 01:02:03:04:05:06 ptDev=0x1111
	STA オン/オフライン	TOPOLOGY NOTIFY: sta [11:22:33:44:55:66] associate with [01:02:03:04:05:06] state:0/1
	agent からの search/M1 メッセージ受信	Receive agent:01:02:03:04:05:06 1(0:2.4G 1:5G 2:6G) AP-autoconfiguration search/WSC(M1) message , devBandEnable 1
	sync response	Send 0(0:2.4G 1:5G 2:6G) AP-autoconfiguration response message to agent:01:02:03:04:05:06.
	sync M2 メッセージ	Send 0(0:2.4G 1:5G 2:6G) AP-autoconfiguration WSC(M2) message to agent:01:02:03:04:05:06.
	sync renew メッセージ	Send 0(0:2.4G 1:5G 2:6G) AP-autoconfiguration renew message.
	agent プライベートメッセージ受信	Receive agent:94:e3:ee:ff:ff:4e 0(0:2.4G 1:5G 2:6G) Vendor specific message.
	プライベートメッセージ	Send 1(0:2.4G 1:5G 2:6G) Vendor specific message to

	送信	agent:94:e3:ee:ff:ff:4e.
	STA ローミング原因	ROAM INFO sta [11:22:33:44:55:66]: srcap [01:02:03:04:05:06] ==> dstap [06:05:04:03:02:01] reason:0
	STA ローミング結果	ROAM INFO sta [11:22:33:44:55:66]: srcap [01:02:03:04:05:06] ==> dstap [06:05:04:03:02:01] actualmac [00:00:00:00:00:00] result=0 statusCode=7
	バックホール方式	TOPOLOGY NOTIFY : Dev[01:02:03:04:05:06] backhaul by 0(0:ETH 1:24G 2:5G)
新規追加	音声初期化保護	SLIC reinitialize TDM reinitialize
新規追加	memory/CPU 使用率の表示	Memory X CPU X

参考：メッシュ機能にて、ローミングの原因・結果・BTM report statusCode 一覧：

ローミングの原因：

0---デフォルト値

1---ロードバランス（airport 利用率／sta 数は閾値を超える場合に起動。デフォルトは OFF）

2---btm guide（信号の強さが閾値を超えた場合に起動，sta は AP 間で切り替え）

3---bandsteer（sta は Controller の 2.4G と 5G 間切り替え）

4---NW 最適化（AP オンライン時、AP の置く場所により NW の構成を調整）

STA ローミング結果：

0---ローミング成功

1---sta offline により失敗

2---ローミング後の bss と目標 bss と一致しない原因で失敗

3---ローミング後の bss とソース bss と同じの原因で失敗

BTM report statusCode :

Status code	Status code description
0	Accept
1	Reject—Unspecified reject reason.
2	Reject—Insufficient Beacon or Probe Response frames received from all candidates.
3	Reject—Insufficient available capacity from all candidates.
4	Reject—BSS termination undesired.
5	Reject—BSS termination delay requested.
6	Reject—STA BSS Transition Candidate List provided.
7	Reject—No suitable BSS transition candidates.
8	Reject—Leaving ESS.
9-255	Reserved

6.4 リモートログの管理

概要

リモート ログ管理機能により、F5748Q はログ情報をリモートログサーバーまたはストレージデバイスに送信できます。

この機能を有効にする主な目的は、管理者が F5748Q の動作状況をリモートで監視および分析し、潜在的な問題をタイムリーに発見して解決できるようにすることです。

手順

1. 本製品のメインページから **管理 & 診断 > リモートログ管理**を選択し、「**リモートログ管理**」ページを開きます。図 6-7 を参照してください。

図 6- 7 リモートログ管理

▼ リモートログ管理

リモートログ

☐ オン ☒ オフ

設定

キャンセル

2. **リモートログ管理**を設定します。パラメータは表 6-3 を参照してください。

表 6- 4 リモートログ管理パラメータ

パラメータ	説明
リモートログ	オン：ホームゲートウェイは、指定されたリモートログ サーバーまたはストレージデバイスへのログ情報の送信を開始します。通常、これには、ログ情報が正しく送信および保存されることを保証するために、リモート サーバーのアドレス、ポート、認証、およびその他のパラメータを設定することが含まれます。 オフ：ホーム ゲートウェイはリモート サーバーへのログ情報の送信を

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

6.5 診断

概要

診断の方法を説明します。診断は、診断設定機能のパラメータを提供します。
関連する診断には、PING テスト、トレースルート診断が含まれます。

手順

Ping テスト

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > 診断 > 実行**を選択し、「PING テスト」ページを開きます。

図 6-8 を参照してください。

図 6- 8 PING テストページ

▼ 実行

[診断時に注意すべきことは何ですか？](#)

▼ PINGテスト

IPアドレス/ホスト名

インターフェース ▼

診断結果

2. PING テストを実行します。パラメータは表 6-5 を参照してください。

表 6- 5 PING のパラメータ内容

パラメータ	説明
IP アドレス/ホスト名	PING テストする宛先の IP アドレス/ホスト名を設定します。
インターフェース	PING テストを実施したいインターフェースを選択します。 オートセンス：設定したアドレスにより LAN 側/WAN 側を自動判別し、

	PING テストを実行します。 LAN : LAN 側のテストを実行するときに選択します。 commufa : WAN 側のテストを実行するときに選択します。 初期値 : オートセンス
--	--

3. **[実行]**をクリックすると、診断結果を表示します。

4.

トレースルート診断

1. 本製品のメインページから **管理&診断 > 診断 > 実行**を選択し、「**トレースルート診断**」ページを開きます。図 6-9 を参照してください。

図 6- 9 トレースルート診断ページ

2. **トレースルート診断**を行います。パラメータは表 6-6 を参照してください。

表 6- 6 トレースルート診断のパラメータ

パラメータ	説明
IP アドレス/ホスト名	トレースルート診断する宛先の IP アドレス/ホスト名を設定します。
WAN 接続	オートセンス：設定したアドレスにより LAN 側/WAN 側を自動判別し、PING テストを実行します。 commufa：WAN 側の診断を実行するときに選択します。 初期値：オートセンス
最大ホップ数	ホップ数を設定します。 初期値：30 範囲 1 ～ 64
待ち時間	待ち時間を設定します。 初期値：5000 範囲 2000 ～ 10000
プロトコル	プロトコルを選択します。 UDP：UDP を設定します。 ICMP：ICMP を設定します。 初期値：UDP

3. **[実行]**をクリックすると、診断結果を表示します。

6.6 IPv6 スイッチの設定

概要

IPv6 スイッチを有効／無効にする方法を説明します。

手順

1. 本製品のメインページから **管理&診断** > **IPv6 スイッチ**を選択し、「IPv6 スイッチ」ページを開きます。図

6-10 を参照してください。

図 6- 10 IPv6 スイッチページ

▼ IPv6スイッチ

IPv6ステータス

オン

▼

設定

キャンセル

2. IPv6 スイッチの設定では、次の操作を実行できます。

- [オン]を選択後、「設定」をクリックし有効にします。
- [オフ]を選択後、「設定」をクリックし無効にします。
- 初期値：オン

Note:

設定は本製品が再起動された後に反映します。

3. **[設定]**をクリックし、選択したパラメータを反映します。

第 7 章

トラブルシューティング

POWER LED が点灯しない

電源が入っていません。付属の電源アダプタが正常に接続しているか確認してください。

通電後にステータス LED が赤色で点灯しています

本製品に何らかの問題が生じている状態です。リセットし、LED の状態を確認してください。同じ状況が続く場合、サービス提供元が指定するお問い合わせ先に連絡してください。

通電後に OPT LINK LED が点灯しません

光の入力が無い状態です。POWER LED が緑色に点灯しているか確認してください。POWER LED が点灯し、OPT LINK LED が点灯していない場合、サービス提供元が指定するお問い合わせ先に連絡してください。

通電後に LAN LED が点灯しません

該当の LAN ポートがリングダウンの状態です。このポートに接続されているデバイスに 電源が入っているか、あるいはイーサネットケーブルが正しく繋がっているか確認してください。

使用中に接続されている LAN ポートの LED が点灯しているのに通信できません

本製品は高温を検出した場合、シャットダウンします。その際 Power LED とステータス LED は赤点灯、LAN ポート（LAN1-4）、インターネット、AIR_2.4G、AIR_5G 及び AIR_6G の LED は緑点灯

の状態になりますが、通信を全て切断します。

高温状態が解消されると、本製品は自動的に再起動し、切断していた状態を解除し、通信機能が復旧（通常）状態に戻ります。

何度も発生する場合は、設置環境を見直し、5.1.3 ECO モード管理設定をお試ください。

ご使用にあたっては、直射日光を避け本製品の前後左右 10cm、上 10cm 以内に、パソコンや壁などのものが無い換気性のよい適切な環境で、また横置きや重ね置きせずご使用ください。壁掛けの場合、壁掛け面は除きます。

iPhone/Android などのスマホで WebGUI にログインした後 Web ブラウザのデスクトップ版で開きなすと 404 Not Found になりました。

スマホで WebGUI にアクセスする時、スマホ専用画面を使ってください。



図 1- 1 前面パネルの LED 表示	9
図 1- 2 背面ポートとボタン	13
図 1- 3 ケーブル・Wi-Fi 接続	22
図 2- 1 インターネット プロトコル バージョン 4 のプロパティ	25
図 2- 2 Ping ページ	26
図 2- 3 ログインページ	26
図 2- 4 本製品(F5748Q)のメインページ	27
図 2- 5 ログイン ページ	28
図 2- 6 本体のシール	28
図 2- 7 ログイン画面 パスワード変更	29
図 3- 1 Topology 情報	30
図 4- 1 PON 情報ページ	31
図 4- 2 WAN 接続ステータスページ	32
図 4- 3 WAN 接続ページ	33
図 4- 4 IP パケットフィルタ IPv4 ページ	36
図 4- 5 IP パケットフィルタ IPv6 ページ	40
図 4- 6 ALG(アプリケーションレイヤゲートウェイ)ページ	44
図 4- 7 DMZ IPv4 ページ	48
図 4- 8 ポート転送ページ	50
図 4- 9 NATP ページ	52
図 4- 10 RIP ページ	53
図 4- 11 RIPng ページ	54
図 4- 12 SNTP ページ	55
図 5- 1 LAN 情報ページ	57
図 5- 2 無線 LAN オン/オフ設定ページ	58
図 5- 3 無線 LAN 詳細設定ページ	59
図 5- 4 無線 LAN SSID の設定ページ	63
図 5- 5 バンドステアリング管理ページ	66
図 5- 6 アクセス制御モード設定ページ	67

図 5- 7 アクセス制御ルール設定ページ	68
図 5- 8 LDPC ページ	69
図 5- 9 WPS コントロール	70
図 5- 10 WPS ページ	71
図 5- 11 Mesh Wi-Fi	74
図 5- 12 無線 LAN モードステータスページ	75
図 5- 13 MLO	76
図 5- 14 割り当てアドレス(DHCP)ページ	76
図 5- 15 DHCP サーバーページ	77
図 5- 16 DHCP バインディングページ	79
図 5- 17 ルーティングテーブルページ	80
図 5- 18 静的ルーティングページ	81
図 5- 19 ポリシールーティングページ	83
図 5- 21 静的ルーティングページ	84
図 5- 22 ポリシールーティングページ	86
図 5- 23 UPnP ページ	88
図 5- 24 PPPoE ブリッジページ	89
図 6- 1 デバイス管理ページ	90
図 6- 2 ソフトウェア アップグレードページ	91
図 6- 3 ECO モード設定ページ	93
図 6- 4 設定値の保存と復元ページ	94
図 6- 5 管理者パスワードの管理ページ	95
図 6- 6 システムログ管理ページ	97

表

表 1- 1 パッケージの内容	8
表 1- 2 LED 表示の説明	10
表 1- 3 背面ポートとボタンの説明	14
表 1- 4 製品仕様	15
表 1- 5 製品特性	16
表 4- 1 WAN 接続のパラメータ	34
表 4- 2 IPv4 フィルタのパラメータ	36
表 4- 3 IPv6 フィルタのパラメータ	40
表 4- 4 ALG のパラメータ	45
表 4- 5 DMZ のパラメータ	48
表 4- 6 ポート転送のパラメータ	50
表 4- 7 NAT のパラメータ	52
表 4- 8 RIP パラメータ	53
表 5- 1 無線 LAN オン/オフ設定のパラメータ	58
表 5- 2 無線 LAN 詳細設定のパラメータ	60
表 5- 3 無線 LAN SSID 設定のパラメータ	64
表 5- 4 アクセス制御ルール設定のパラメータ	68
表 5- 5 LDPC のパラメータ	69
表 5- 12 ポリシールーティングのパラメータ	86
表 5- 13 UPnP のパラメータ	88
表 5- 14 PPPoE ブリッジのパラメータ	89
表 6- 2 ユーザーアカウント管理のパラメータ	96
表 6- 3 システムログ管理パラメータ	97

用語集

ACL アクセス制御リスト

Access Control List / アクセスコントロールリスト

ALG アプリケーション レベル ゲートウェイ

Application Level Gateway / アプリケーションレベルゲートウェイ

BPDU ブリッジ プロトコル データ ユニット

Bridge Protocol Data Unit / ブリッジプロトコルデータユニット

DHCP ダイナミック ホスト コンフィグレーション プロトコル

Dynamic Host Configuration Protocol / ダイナミックホストコンフィグレーションプロトコル

DLNA デジタル リビング ネットワーク アライアンス

Digital Living Network Alliance / デジタルリビングネットワークアライアンス

DMP デジタル メディア プレーヤー

Digital Media Player / デジタルメディアプレーヤー

DMZ デミリタライズド ゾーン

Demilitarized Zone / デミリタイズドゾーン

DNS ドメイン ネーム システム

Domain Name System / ドメインネームシステム

DSCP ディファレンティエーテッド サービス コード ポイント (DiffServe コードポイント)

Differentiated Services Code Point / ディファレンティエーテッドサービスコードポイント

FTP ファイル転送プロトコル

File Transfer Protocol / ファイルトランスファプロトコル

ISP インターネット サービス プロバイダ

Internet Service Provider / インターネットサービスプロバイダ

MTU マキシマム トランスミッション ユニット

Maximum Transfer Unit / マキシマムトランスミッションユニット

NAT ネットワークアドレス変換

Network Address Translation / ネットワークアドレ스트ランスレーション

OS オペレーティング システム（基本ソフト）

Operating System / オペレーティングシステム

RA ルーティング エリア

Routing Area / ルーティングエリア

SLAAC ステートレス自動設定

Stateless Address Auto Configuration / ステートレスアドレスオートコンフィグレーション

SNTP シンプル ネットワーク タイム プロトコル

Simple Network Time Protocol / シンプルネットワークタイムプロトコル

TCP トランスミッション コントロール プロトコル

Transmission Control Protocol / トランスミッション コントロール プロトコル

UDP ユーザー データグラム プロトコル

User Datagram Protocol / ユーザー データグラム プロトコル

UPnP ユニバーサル プラグ アンド プレイ

Universal Plug and Play / ユニバーサルプラグアンドプレイ

URL ユニフォーム リソース ロケータ

Uniform Resource Locator / ユニフォームリソースロケータ

VOD ビデオ オン デマンド

Video On Demand / ビデオオンデマンド

WPA ワイファイ プロテクトド アクセス

Wi-Fi Protected Access / ワイファイプロテクトドアクセス

WPS ワイファイ プロテクトド セットアップ

Wi-Fi Protected Setup / ワイファイプロテクトドセットアップ